令和４年度事業報告書

2022LEAF

鹿児島県 奄美パーク

目 次

第１　鹿児島県奄美パーク概要 ・・・・・・・・・・ 1

第２　令和４年度の事業実績について ・・・・・・・・・・ 2

第３　奄美の郷企画事業 ・・・・・・・・・・ 3

１　季節感（年中行事）を取り入れたイベント ・・・・・・・・・・ 3

(1)　あまみっ子フェスタ

(2)　ネリヤカナヤフェスタ

(3)　奄美パーク夏祭り～シマジマだより沖永良部島～

(4)　フユウンメコンサート

(5)　奄美パーク春祭り～サンガツサンチ～

２　わきゃステージ in パーク事業 ・・・・・・・・・・ 10

(1)「平和への想い～書と歌による次世代へ語り継ぐ歴史の継承～」オープニングイベント

(2)　第 10 回龍郷町キットハレ芸能祭

(3)　ソリストの伝言

(4)　アマービレ吹奏楽団　第 33 回定期演奏会

(5)　でぃ！まーじん　シマユムタ・シマ唄でゆらおう

(6)　第１回奄美群島学生環境シンポジウム

(7)　令和４年度 民謡民舞奄美連合大会

(8)　2022 奄美　美の競演

(9)　ほしのうたがきこえる音楽祭

(10) アマービレ吹奏楽団　スプリングコンサート

３　自主企画事業 ・・・・・・・・・・ 21

(1)　奄美の郷ライブステージ

①　華麗なる歌と舞　ならびや歌謡ショー

②　AMAMI DANCE IN THE PARK

③　歌声パーク

④　島んちゅ会　でぃ・ま～じんま！

⑤　奄美パークパフォーマンスバトル 2023

(2)　奄美パークわくわく遊び広場

(3)　第３回　ウォーターパーティー in 奄美パーク

(4)　サマーワークショップ　ハブのいるくらし～原ハブ屋カードゲームバトル～

(5)　第５回奄美パークハロウィンイベント

(6)　奄美パーク開園 20 周年記念　奄美群島伝統芸能の祭典“島々の饗宴”

(7)　第 16 回奄美パークわらべシマ唄大会

(8)　第 16 回奄美パーク子どもクリスマス会

(9)　奄美パーク新春寄席

(10)　奄美パーク初春唄あしび

第４　田中一村記念美術館企画事業 ･･ 38

1　奄美関連作家による企画展 ･･ 38

(1)　平和への想い～書と歌による次世代へ語り継ぐ歴史の継承～

(2)　FROM BEFORE BIRTH TO AFTER AMAMI：FRAGMENTS FROM A LIFE IN ART「ブレントウイルソンの人生の記録」

(3)　奄美世界自然遺産登録 1 周年記念写真展「奄美悠久の自然と文化　写真展」

(4)　ワークス展 in 奄美

(5)　奄美の星空　写真・アート展

(6)　第 42 回　奄美市児童生徒書き初め展・奄美書道協会会員展

2　第 68 回県美展　奄美関連作家展 ･･ 45

3　美術講演会 ･･ 46

4　第 1 回奄美を写す写真展 ･･ 47

5　第 12 回田中一村記念スケッチコンクール作品展 ･･････････････････････････････････ 48

6　第 21 回奄美を描く美術展 ･･ 50

(1)　本展

(2)　巡回展

(3)　入賞作品

7　龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展 ･･････････････････････････････････ 57

8　創作体験教室 ･･ 58

(1)　創作体験教室　写真講座

(2)　創作体験教室　日本画講座

(3)　創作体験教室　人物画講座

9　夏休みワークショップ ･･ 61

(1)　夏休み子どもワークショップ「風鈴をつくろう」

(2)　夏休み親子草木染め体験

10　田中一村鑑賞会 ･･ 63

11　その他企画事業 ･･ 64

(1)　学芸専門員派遣授業事業
(2)　田中一村記念美術館「リモート鑑賞授業」
(3) 一村キッズクラブ
ア　スケッチ活動（４月）
イ　スケッチ活動（５月）
ウ　スケッチ活動（６月）
エ　スケッチ活動（８月）
オ　手紙スケッチ活動（９月）
カ　スケッチ活動（11 月）
キ　年賀状づくり（12 月）
ク　書き初め活動（１月）
ケ　本茶峠入口まで歩こう（３月）
(4)　田中一村記念美術館４コマ劇場
第５ 奄美パーク応援隊 ･･･ 72
第６ その他　関連イベント ･･･ 73
まるごと奄美 in 東京 ･･･ 73

第１　鹿児島県奄美パーク概要

１　施設設置の目的

鹿児島県奄美パークは，奄美の美しい自然や多様な文化・歴史をわかりやすく紹介した総合展示ホール，奄美シアター及び人々の交流の場を提供するイベント広場からなる「奄美の郷（さと）」と，奄美の自然を描き，集大成させた孤高の日本画家「田中一村」の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とする奄美群島全体の観光拠点施設として，奄美市笠利町節田の旧奄美空港跡地に建設された。

２　設　置　者　鹿児島県

３　開園年月日　平成 13 年９月 30 日

４　指定管理者　奄美群島広域事務組合

５　園長兼館長　宮崎緑（千葉商科大学国際教養学部教授，元ＮＨＫ「ＮＣ９」ニュースキャスター）

６　園 地 面 積　約 77,000 ㎡

７　総 事 業 費　約 76 億円（開園時）

８　施設の概要

(1) 奄美の郷（延べ床面積約 3,200 ㎡）

白い貝殻をイメージした外観。建物内の梁などは，琉球松の大断面集成材で，ソテツの葉をイメージした造形。

○　総合展示ホール，奄美シアター　（有料）

○　アイランドインフォメーション，イベント広場，レストラン，売店

(2) 田中一村記念美術館（延べ床面積約 2,500 ㎡）

奄美の海をイメージした池に３棟の高倉（奄美の穀物倉庫）が浮かぶ様をデザインした設計。床は奄美大島の山で多くみられるイタジイを使用

○　常設展示室，特別展示室　（有料）

○　企画展示室，ガイダンス室，図書資料室，喫茶・ミュージアムショップ

(3) 一村の杜（面積約 7,000 ㎡，平成 19 年７月 20 日完成）

田中一村が描いた奄美の草木を植栽した遊歩道。６つのスポットで構成されており，一村作品に描かれている風景を鑑賞できる。

(4) その他の施設

多目的広場（約 3,780 ㎡），野外ステージ，展望台，駐車場（約 240 台）

９　観 覧 料 金　（ ）内は 20 名以上の団体料金（令和元年 10 月１日改定）

共　　通	大人 630 円（500 円）	高・大学生 420 円（330 円）	小・中学生 310 円（240 円）
奄　美　の　郷	大人 310 円（240 円）	高・大学生 220 円（170 円）	小・中学生 150 円（120 円）
田中一村記念美術館	大人 520 円（410 円）	高・大学生 370 円（290 円）	小・中学生 260 円（200 円）

10　休　園　日　毎月第１，第３水曜日

祝日の場合は翌日。ただし 4/29 ～ 5/5，7/21 ～ 8/31，12/30 ～ 1/3 は開園

11　開 園 時 間　９：00 ～ 18：00（７月，８月は 19：00 まで）

12　入 園 者 数　令和５年３月末現在 延べ　2,754 千人（令和４年度入園者数 116 千人）

13　組　　織　計 12 名（県職員４，市町村職員４，会計年度任用職員３，特別職非常勤職員１）

園　　長
兼 館 長
（特別職非常勤）

- 次長（県）
  - 総務課長（次長兼務）── 担当３（県１，市町村１，会計任用（事務補助）１）
  - 事業課長（県）
    - 奄美の郷３（市町村２，会計任用（事業推進員）１）
    - 田中一村記念美術館３（県1，市町村1，会計任用（事務補助）1）

第２　令和４年度の事業実績について

「奄美の郷」では，総合展示ホール，奄美シアター，アイランドインフォメーションにおいて奄美群島の自然，歴史，文化などの多彩な魅力を紹介し，イベント広場では島唄・伝統芸能などのイベントを定期的に開催しています。「田中一村記念美術館」では，日本画家「田中一村」の作品を常設展示するほか，企画展示室において奄美関連作家展，招待作家展，奄美を描く美術展などの作品展を定期的に開催しています。

令和４年度は，令和２，３年度と同様に幾度も新型コロナウイルス感染症が蔓延した時期もありましたが，人々の移動制限やイベント等の開催も緩和され，奄美の郷及び田中一村記念美術館合計で昨年度より約７割増の入場者の来場がありました。

来場者の検温・消毒や人数制限などの予防対策に努めながら，奄美の郷では季節ごとの風習に関連したイベントや島唄，ダンス，楽器演奏，写真展，親子ワークショップなどの多種多様なイベント，また，令和３年度に，新型コロナウイルス感染症拡大により延期となっていた「奄美パーク開園 20 周年記念奄美群島伝統芸能の祭典“島々の饗宴”及び記念式典」を多くの方々のご支援・ご協力により盛大に開催することが出来ました。

“島々の饗宴”においては，同じ奄美群島にありながら言葉も風俗習慣もシマ毎に異なり多様性に富む文化・伝統の更なる継承・発展のため，奄美群島有人八島の伝統文化，伝統芸能，特産品（食）を一堂に披露し，各島々の魅力を国内外に発信するとともに，奄美地域の文化振興に資することを目的として，10 月 29 日・30 日の２日間に渡り実施しました。伝統芸能の演目では，12 市町村計 16 団体（うち１町１団体が棄権）が特色ある踊りや演技を力強く華麗に披露し，会場を盛り上げました。また，野外（出会いの広場）では，７市町村８店舗による各島特産のフルーツや農産加工品，伝統工芸品などが販売され，地元の家族連れや観光客で賑わいました。節目の年を祝った記念式典では，行政・文化・観光関係機関の代表者が出席し，宮崎緑園長の主催者挨拶や，塩田康一県知事などによる挨拶が行われました。また，地元の節田小学校による「アマンディー太鼓」の演奏，宮崎園長による入館者の推移や施設・展示のリニューアルなど 20 年の歩みの紹介，喜界島出身の川畑さおり氏による島唄，作家で博物学者の荒俣宏氏による「うたの本源をもとめて『しまうた』の霊威」と題した記念講演が行われました。荒俣氏は奄美群島の日本復帰後，日本中で奄美の音楽が注目されたのは，群衆が歌い，踊る奄美の音楽に西洋化の流れで失われた日本の根本を感じたからではないかなどと語り，奄美の島唄の素晴らしさを説きました。

田中一村記念美術館では初回となる「奄美を写す写真展」や開館以来続く「奄美を描く美術展」など，年間を通じた様々な企画展や「風鈴づくり」「草木染め体験」などの体験型イベント，一村研究の第一人者である千葉市美術館学芸課長の松尾知子先生を招いた美術講演会，一村キッズクラブの外部活動を実施しました。

これからも，奄美群島全体の観光拠点施設として，また人々の交流の場所として，奄美群島への誘客を促進し，更なる情報発信と様々な事業を展開してまいりますので，今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

奄美の郷　田中一村記念美術館　展望台　旧奄美空港滑走路

第３　奄美の郷企画事業

１　季節感（年中行事）を取り入れたイベント

(1)　あまみっ子フェスタ

ア　開催日時　令和４年５月５日（木・祝）　午前の部 10：30 ～ 12：00　午後の部 13：30 ～ 15：00

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 700 人（YouTubeLive 配信視聴者数 27 人）

エ　内　　容

こどもの日の祝日に，奄美群島内の子どもたちによる郷土芸能の発表や子どもを対象にしたダンスやマジックショーなどにより，地域の子どもたちの交流を図るとともに，奄美パークへの誘客促進を目的として，毎年恒例のイベントとして定着していた「あまみっ子フェスタ」を開催した。コロナ禍により２年間中止となっていたが，３年ぶりの開催であった。

午前の部は，「節田小学校アマンディー太鼓」の皆さんによる勇壮な太鼓の響きで幕を開けた。続いて登場した「あやまる会」は，よちよち歩きのお子さんの踊りに会場が和やかな雰囲気に包まれ，大島紬を着こなした小中学生の大人顔負けの島唄には感嘆の拍手が送られた。「大島北高校ダンス同好会」の皆さんは，動画サイト TikTok で，今まさに流行している最新のダンスを元気いっぱいに披露した。最後は，ゲストの ZOOMADANKE(ズーマダンケ) によるけん玉パフォーマンス。ダンスと融合した凄技に観客席も大いに盛り上がった。また，観客の少年を舞台に上げ，一緒にけん玉に挑戦した。何度目かの失敗の後，技が成功した時には，ひときわ大きな拍手が送られた。

ステージ終了後は，アイランドインフォメーション付近で，奄美市レクリエーション協会の皆さんによるバルーンを使った遊びや，子どもの日にちなんで新聞紙で兜を折る遊びなどをレクチャーするコーナーを設け，多くの親子が参加した。用意したバルーン 300 個はすべて配布した。

午後の部の最初は「奄美高校郷土芸能部」が登場。最後の六調では，観客席にいた出演者の祖母たちが踊りだし，おおいに盛り上がった。次の「B → MATONDS ☆ DANCE STUDIO」は，３歳から中高生まで総勢 46 人の出演者が，20 分間ノンストップで HIPHOP ダンスを披露。衣装の早替えや，ダンスの技の数々で観客を圧倒した。「伊津部小学校さざ波バンド」は，島唄をモチーフに取り入れた伝統のオリジナル曲を披露。ほら貝やチヂン（太鼓），三線などを使った奄美らしい演奏に惜しみのない拍手が送られた。午前の部に引き続き，ゲストの ZOOMADANKE がトリを飾った。午前の部の反省を踏まえ，小さい子どもたちが見やすいようにステージ前に座るように誘導した。

観客からは「久しぶりに子どもたちの発表が観られてよかった」「けん玉のパフォーマンスが面白かった。自分もやってみたい」「ゴールデンウィークのいい思い出作りが出来た」などの感想が寄せられた。

(2)　ネリヤカナヤフェスタ

①　フラダンスパーティー

ア　開催日時　令和４年７月 18 日（月・祝）　13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 130 人（YouTubeLive 配信視聴者数 13 人）

エ　内　　容

周りを海に囲まれ豊かな海産資源に恵まれた奄美の人々は，海の彼方に神々が住む理想郷ネリヤカナヤがあると信じ，昔から海を信仰の対象としてきた。島への来訪者をネリヤカナヤからの使者とみなし，大切にもてなす風習は現代の島人たちの心にも残っている。

このような由来を踏まえ，島と外の世界をつなぐ奄美の海への興味を高め，人々の交流を図ることを目的とした夏のイベント「ネリヤカナヤフェスタ」を実施した。

オープニングイベントとして，地元奄美の子どもから大人まで登場する４団体によるフラダンスパーティーを実施し，海に囲まれた島国ハワイの伝統文化であるフラダンスで華やかに盛り上げた。

ステージでは，各チームが前後半の２部にかけて，ゆったりとした曲やリズミカルな曲などに合わせて，それぞれの“フラダンスの世界観”を舞台で表現した。

また，イベント中盤では，地元在住のシンガーソングライター楠田莉子氏が，自身のオリジナル４曲を爽やかな歌声で披露し，来場した約 130 人の観客を魅了した。

出演団体は，以下のとおり（敬称略）

リコフラダンス教室，アロヒ・イリケア・フラスタジオ，カレイオハウオリフラスタジオ，Aokai（アオカイ），特別ゲスト　楠田莉子

② 写真展「笠利湾をのぞく　～奄美大島の海を調べるプロジェクト 2021 海域調査～」

ア　開催期間　令和４年７月 18 日（月・祝）～８月 31 日（水）

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　アイランドインフォメーション付近

ウ　入場者数　奄美の郷　７月：2,665 人　８月：6,262 人　合計：8,917 人

トークショー　令和４年７月 31 日（日）　約 10 人

（YouTubeLive 配信視聴者数 12 人）

エ　内　　容

海をテーマにしたイベント「ネリヤカナヤフェスタ」の一環として，写真展「笠利湾をのぞく～奄美大島の海を調べるプロジェクト 2021 海域調査～」を開催した。調査を行った中野恵氏（日本自然保護協会），James Davis Reimer 氏（琉球大学理工学研究科），櫛田優花氏（元鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室･現 立正大学地球環境科学部）にご協力いただき，写真やデータを提供いただき展示した。

笠利湾は，奄美パークが位置する奄美大島北部の東シナ海側にある。豊かなサンゴ礁が広がる海中の風景や，クマノミなどの魚，イソギンチャク，海藻類などの生態写真など，およそ 30 点を展示した。

また，聞取り調査の報告として「奄美大島北部むかしの海の姿」をイラストと文章で紹介するコーナーや，「笠利湾の危機」と題して，ヘドロ化した真っ黒な砂が見られる様子の写真など問題提起も行った。

７月 31 日（日）には関連トークショーを開催した。調査に関わった先生方が ZOOM を利用して出演し，一般にもわかりやすい内容で調査報告を行った。急な開催だったため，来場者は 10 人ほどと少なかったが，YouTube ライブ配信を行い，アーカイブを残すことで，専門の研究者や関心の深い方々へ届けることが出来た。

観覧者からは「珍しい生き物の写真が観られて興味深い」や，「綺麗に見えるけれど，環境が変化していることを知った」などの意見が聞かれた。また，地元，笠利の老人ホームの職員や利用者が写真展を目当てに見学に来るなど，地域の方々にも楽しんでいただけた。

令和4年7月31日開催　トークショー

③　親子ワークショップ「型染めエコバッグ作り」

ア　開催日時　令和４年８月７日（日）　13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　参加者数　５組 16 人

エ　内　　容

ネリヤカナヤフェスタの一環で親子ワークショップ「型染めエコバッグ作り」を開催した。夏休み期間中で８月上旬ということもあり，人気が高く，15 組の応募があったが，作業工程・内容から抽選により５組 16 人の親子を選ばせてもらった。

奄美市名瀬浦上にある型染工房 BIROU の林花穂氏が講師を務め，参加者は染物や染料の種類，色が染まる仕組み，実際に型を使って模様を付けていく工程などのレクチャーを受けた後，奄美の生き物を含め様々な動植物などの型から好みの型を選び，無地のエコバッグに型染めを行った。

参加者は，最初のうちは慣れない作業の中で，上手く色を付けることに苦労している様子が見られたが，講師のアドバイスを受け，段々と色付けのコツを掴み自ら工夫して様々な型を組み合わせて色彩豊かなエコバッグを作っている姿が多く見られた。中には，海の生き物の型を組み合わせて斬新なデザインにするなど，独創的な発想を持った参加者もおり，同席した保護者も含めて真剣な表情で夢中になって楽しんでいたのが印象的であった。

「集中して細かい作業を行ったので疲れたが，楽しかった」と笑顔で話していた参加者も多く，参加者が満足して終えたイベントとなった。

(3)　奄美パーク夏祭り～シマジマだより沖永良部島～

ア　開催日時　令和４年８月20日（土）　13：30～15：30

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約50人（YouTubeLive配信視聴者数13人）

エ　内　　容

平成20年から奄美群島の島々の内一つの島に焦点を当て，その島の伝統芸能や文化などを紹介するイベントを開催しており，今回は，沖永良部島の音楽アーティスト等が出演した。

オープニングを飾ったのは，和泊町の若者３人による「ゆうはらんバンド」で，会場の雰囲気を和ませる自己紹介に始まり，沖永良部民謡などの３曲を島唄の定番である三線だけでなく，ギターやカホンと呼ばれる打楽器の演奏を交じえながら披露し，会場を盛り上げた。

次に，和泊町のうるま音楽協会が第１部として，馬山川（バジャンガー）と呼ばれる喜歌劇を披露した。劇の内容は，独特な化粧を施し，男女の出会いをユーモラスに表現するもので，会場からは笑い声も聞こえるなど楽しい雰囲気となった。

唄や踊りのステージの合間に，元パーク職員で和泊町職員の太剛志氏のバルーンアートショーも行われ，いくつものバルーンを繋げて輪を作り，送風機を使って空中で回すパフォーマンスや巨大なバルーンの中に自由自在に体を出し入れするパフォーマンスを披露するなど会場を大いに盛り上げた。また，観客の子供たちにもステージで一緒にパフォーマンスに参加してもらうなど，観客を巻き込んで会場全体を楽しませていた。

続いて，太氏がメンバーの一員として所属しているバンシローズが歌のステージを披露した。

演奏曲は，リーダーの金城康弘氏が作詞作曲した「SIMAぐらし」をはじめとする６曲で，ギター，サックス，ドラムといった楽器のリズミカルな合奏に金城氏のパワフルな歌声が相まって素晴らしいステージとなった。

最後にステージを締めくくったのは，うるま音楽協会で，沖縄民謡と沖永良部民謡の５曲を三線や太鼓の演奏に合わせた歌唱のステージを披露した。最後の沖永良部島を代表する曲「えらぶゆりの花」では，出演者と観客が会場で輪を作り，演奏に合わせて一緒に踊るなど，感慨深いステージとなった。

イベントでは，特産品販売ブースも設けられ，「ゆうはらんバンド」のメンバーの一人で，おきのえらぶ島観光協会の職員でもある福島氏により，沖永良部島の食材を使った特産品の紹介があり，沖永良部島を魅力的にPRした。特にお菓子の商品は人気があり，完売した商品もあるなど大盛況であった。また，飲みやすくて美味しい青汁の試飲コーナーも用意され，多くの人で賑わっていた。

観客の中には，沖永良部島出身者も多く来場しており，故郷を懐しみながら楽しんでおり，また，唄や踊りのステージ，特産品販売を通して沖永良部島の様々な魅力が感じられた有意義なイベントであった。

(4)　フユウンメコンサート

ア　開催日時　令和４年12月４日（日）　13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約600人（YouTubeLive配信視聴者数39人）

エ　内　　容

秋から冬への季節の移り変わりと新年の訪れを感じるこの時期に，「フユウンメコンサート」と題して，奄美群島出身のアーティストを迎え，冬の音楽コンサートを毎年開催している。

今回は，元ちとせ氏をメインゲストに村山辰浩氏，東郷晶子氏，坂西唯紀氏，アマービレ吹奏楽団の４人・１団体が出演した。

オープニングを飾ったアマービレ吹奏楽団は，「恋人がサンタクロース」など，クリスマスをテーマにした楽曲を中心に披露した。

続いて，兵庫県出身でミュージカル俳優の経歴を持つ坂西唯紀氏が出演し，「Let it go」などの楽曲をミュージカル調の力強い歌声で披露した。

続いて，喜界島出身でシンガーソングライターの東郷晶子氏が出演し，ピアノの弾き語りと透き通った歌声で会場を魅了した。

続いて，カサリンチュでボーカル＆ギターを担当し，現在はソロシンガーとして活動している地元笠利町出身の村山辰浩氏が出演し，ギターによる自身のオリジナルソングを優しく柔らかな歌声で披露した。

最後は，瀬戸内町出身で，2002年にメジャーデビューし，今年でデビュー20周年を迎えた元ちとせ氏がデビュー曲「ワダツミの木」などを披露した。

元氏は，「奄美大島が，昨年世界自然遺産に登録されて，改めて誇りに思った。島のことを見つめ直しながら世界に広めていきたい。」と話し，最後は三味線を手に「ワイド節」を披露し，会場も手拍子や指笛で盛り上がり華やかに終演した。

来場した家族連れは，「元ちとせさんの歌で盛り上がって楽しかった。」「島唄を初めて聞いた。会場と一体感があっていいですね。」とコンサートを楽しんでいた。

(5)　奄美パーク春祭り～サンガツサンチ～

ア　開催日時　令和５年３月５日（日）　13：30 ～ 15：55

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 150 人（YouTubeLive 配信視聴者数 21 人）

エ　内　　容

奄美パークでは，旧暦の３月３日に生後初めての節句を迎える女児の健やかな成長を願い，神様や先祖に餅を供える風習（サンガツサンチ）にちなんで女性の歌い手を中心としたステージイベントを開催している。

今回は，奄美大島で活動している女性歌手中村瑞希氏，坂上友香氏，松崎友香氏，楠田莉子氏，平田まりな氏）の５人によるシマ唄やポップスなど色々なジャンルのコンサートイベントを開催した。

オープニングを飾ったのは，小学５年生からシマ唄を習い始め，民謡民舞全国大会等で数々の賞を受賞した実績のある中村瑞希さんで，４曲のシマ唄を披露した。

中村瑞希氏は，各唄の曲調に合わせて明るく高い声や暗く低い声を使い分けるなど表情豊かに唄い，「徳之島節」では，三線や太鼓のリズムに合わせて観客が手拍子するなど，会場と一体感のある雰囲気となった。

続いて，主婦の傍らギターを弾き始め，歌い手としての活動もされている坂上友香氏によるステージが披露された。坂上友香氏はポップス３曲を披露し，名曲のカバーや知り合いの孫の誕生や島への想いを込めて作詞作曲したオリジナルの歌を披露した。観客は坂上友香氏の優しく透明感のある歌声に癒されているように目を閉じて聴き入る様子も見られた。

次に，少年少女民謡民舞全国大会や奄美民謡大賞（南海日日新聞社主催）で優勝などの実績がある松崎友香氏が自ら作詞作曲したポップス３曲を披露し，会場に響き渡る美しく力強い歌声で観客を魅了した。

続いて，少年少女民謡民舞全国大会等で優勝などの実績があり，高校卒業後，東京での活動を経て，現在は奄美で活動している楠田莉子氏がポップス２曲とシマ唄２曲のステージを披露した。楠田莉子氏は，会場に響き渡る伸びやかな歌声で観客を魅了した。

ラストを飾ったのは，幼少期から奄美の唄者で祖母である松山美枝子氏からシマ唄を習い始め，奄美や全国各地の民謡大会で数々の賞を受賞した実績のある平田まりな氏で，６曲のシマ唄を歌唱し，抑揚のある美しい歌声で会場を盛り上げた。

最後に，締めの定番である「六調」が披露され，平田まりな氏の三線と唄，中村瑞希氏の太鼓，楠田莉子氏の踊りに合わせて観客もステージ前に出て踊りだすなど，会場が一体となって盛り上がり，素晴らしい雰囲気の中終演した。

2　わきゃステージ in パーク事業

(1)「平和への想い～書と歌による次世代へ語り継ぐ歴史の継承～」オープニングイベント

ア　開催日時　令和４年４月 17 日（日）　13：00 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 100 人（YouTubeLive 配信視聴者数 15 人）

エ　内　　容

「平和への想い～書と歌による次世代へ語り継ぐ歴史の継承～オープニングイベント」は，平和への想い実行委員会が命について考える時間を書や音楽などで提供することを目的として，世界で活躍する書家の浜野龍峰氏が奄美大島内外で活動する音楽ユニット Nana，バイオリニスト杉田知子氏とコラボして展示会のオープニングイベントとして企画した。

イベントでは，浜野氏の挨拶から始まり，杉田氏はバイオリンの優しい音色を会場全体に響かせた。また，Nana はオリジナルの楽曲で，戦時中に特攻隊員が中継地の喜界島で残したとされる花について歌った「天人菊の丘」を披露し，優しく柔らかい歌声を聴いて涙を流されている観客もいた。最後には，浜野氏が書道パフォーマンスを行い，大盛況の末にイベントを終えた。

(2)　第10回龍郷町キットハレ芸能祭

ア　開催日時　令和４年４月24日（日）

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場　13：30～15：30

ウ　入場者数　約400人（YouTubeLive配信視聴者数８人）

エ　内　　容

「第10回龍郷町キットハレ芸能祭」は，令和３年３月以来，約１年振りの開催で，龍郷町懐メロ同好会代表の永元安夫氏が中心となって企画し，「シマジマの安寧と無病息災を祈願する」と銘打ち，昭和歌謡曲やシマ唄，奄美民謡などを披露した。

第１部では，龍郷町懐メロ同好会のメンバーが「名瀬セレナーデ」など，昭和歌謡曲14曲を生バンド８人の演奏をバックに披露した。

第２部では友情出演で紫乃華舞舞踊教室（日舞）とフラ・カオ・スタジオ（フラダンス）が，艶やかで華麗な演舞で花を添えた。

第３部では，懐メロ同好会の「東京アンナ」の演奏を皮切りに14曲を披露し，満員の観客を魅了した。

(3)　ソリストの伝言

ア　開催日時　令和４年７月９日（土）　15：30 ～ 16：30
　　令和４年７月 10 日（日）　13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 50 人（２日間合計）（YouTubeLive 配信視聴者数７人）

エ　内　　容

世界的バイオリニストの佐藤美代子氏などのアーティストにより，昨年に続き「ソリストの伝言」シリーズの第２弾として開催した。

佐藤氏は，パリ国立高等音楽院を首席で卒業後，イギリスやフランス，南米など世界各地で活躍した世界的なバイオリニスト。１度挫折したものの 70 代で復活し，再スタートを切った。そして，復活のステージの一つとして奄美パークを選んだ。

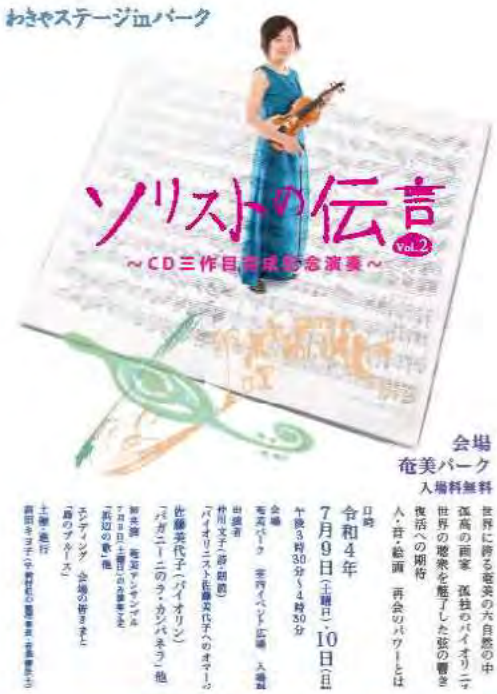
イベントを主催した前田キヨ子氏は，生のバイオリンの音を奄美の皆さんに届けたいとの想いから佐藤氏のステージを企画した。

また，ギタリストの佐藤ふじを氏にも共演いただき，素晴らしい合奏となった。

奄美在住の詩人である仲川文子氏から佐藤氏へ向けた詩のメッセージもあり，バイオリン演奏のステージを彩り，来場者は，目を閉じて聴き入ったり，身体を揺らしながら心地よい演奏に身を任せていた。

７月 10 日の公演のみ YouTube ライブ配信を行い，会場に響いた生のバイオリンの音を拾い，会場へ来ることができなかった方々にも演奏を届けることができた。

演奏曲は「ハンガリー・ファンタジー」「インテルメッツォ・スケルツォーソ」「ラ・カンパネラ」「バイオリン協奏曲ホ短調」「浜辺の歌」「島のブルース」。



(4)　アマービレ吹奏楽団　第33回定期演奏会

ア　開催日時　令和４年７月31日（日）　14：00～15：00

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約110人（YouTubeLive配信なし）

エ　内　　容

アマービレ吹奏楽団は，定期演奏会を毎年奄美パークで開催している。令和２年は新型コロナウイルス感染症感染拡大により中止となったものの，令和３年に再開。今年も昨年に引き続き演奏会を開催した。

楽団は，地元の音楽愛好家が集まって1988年に結成され，イタリアの音楽用語で「愛らしく」という意味の「アマービレ」と奄美の「奄」を掛けて団名が名付けられたとのこと。

当日の演奏者は総勢17人。コロナ禍ということもあり，楽団の約半数での演奏となったが音色はとても力強く，迫力ある演奏で出だしから観客の心をわしづかみにし，視線を釘付けにするパフォーマンスが披露された。

休憩をはさみながら約８曲の楽曲を演奏し，最後の曲が終わると，客席から「アンコール」の声が鳴りやまず，アンコール曲を披露。客席からは大きな拍手が送られ，ステージや客席に満面の笑顔が見受けられた。

(5)　でぃ！まーじん　シマユムタ・シマ唄でゆらおう

ア　開催日時　令和４年８月13日（土）　13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約80人（YouTubeLive配信なし）

エ　内　　容

「でぃ！まーじん　シマユムタ・シマ唄でゆらおう」は，シマユムタを伝える会が主催し，あまみエフエム ディ！ウェイヴの後援により，イベントを開催した。

シマユムタを伝える会は，島口継承に取り組んでおり30年以上活動を続けている団体。新型コロナウイルスの影響でイベントができず久しぶりのイベント開催となった。

イベントは，平久美氏，福山幸司氏によるシマ唄を皮切りに，日置幸男氏，迫田寿恵氏，阿部ミネ子氏もシマ唄を披露し，観客も一緒に「ソテツの実」を合唱した。

シマユムタイムのステージでは，シマユムタ伝える会の鈴木るり子会長が司会進行役を務め，若林京子氏，西博誉氏，湊ムツ子氏，才田一男氏，恵スエ子氏らが太平洋戦争中，戦後の思い出話などをシマグチで話した。

マガ（孫）とゆきゃんぶり（おしゃべり）のステージでは，今里信弘氏，孫の鈴木莉央氏が方言漫談を披露。鈴木氏は今里氏から学んでいる流暢な方言で自分の作文を読み上げ，会場を大いに盛り上げた。

また，英語とシマユムタで漫談のステージでは，日置幸男氏が英語と方言を交えて昔話「桃太郎」を発表し，ユーモア溢れる口調で来場者を笑わせた。

最後は，観客も一緒に奄美の締めの定番の六調を踊りイベントを締めくくった。

(6)　第１回奄美群島学生環境シンポジウム

ア　開催日時　令和４年８月21日（日）　13：00～17：00

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約40人（YouTubeLive配信視聴者数16人）

エ　内　　容

「第１回奄美群島学生環境シンポジウム」は，NPO法人ゆいむすび実行委員会が主催してイベントを開催した。

NPO法人ゆいむすび実行委員会は，奄美群島の環境保全やSDGsを推進する活動を行うとともに，地域興し活動等を行うことにより，奄美群島の振興に寄与することを目的としている。

シンポジウムでは，大島北高等学校,大島高等学校,㈱暮らしと健康社,㈲古谷商店みらいコネクト,丸紅㈱の５団体が環境保全の取組みに係る内容や成果などを発表。特別ゲストとして，環境省山根篤大国立公園保護管理企画官，奄美群島広域事務組合安田壮平管理者（奄美市長），舞踊家谷ようこ氏，奄美自然環境研究会常田守会長の４人が審査員を務め，各発表の論評を行った。

大島北高校の４名の生徒が所属するアマンタンカン救い隊は，「廃棄される摘果タンカンを活用するには」をテーマに，タンカンの活用法としてタンカンをそのまま使用したタンカンウォーターや乾燥させたタンカンを使用したハーバリウム，クリスマスリースの手作りキットなどを地元企業へ提案した。また，観光客のニーズに合わせたアンケート調査などを行い，今後のタンカン農業の活性化について発表した。

大島高校の内野真緒氏は，「地球に優しいプラスチックで奄美の海を守ろう」をテーマに，環境に配慮したプラスチック製品を扱う島内のエコ店マップや，環境保全を考慮した製品を紹介するホームページを作成するなど，独自の取組みを紹介した。

他発表者も環境保全活動やSDGsといったテーマに沿って，スライドを出しながら意見を述べた。

各発表者が発表を終えると，特別ゲストの論評と質問が行われ，次世代が考える環境問題の課題解決に向けた活発な意見が交わされた。

(7)　令和４年度　民謡民舞奄美連合大会

ア　開催日時　令和４年 11 月 13 日（日）　11：30 ～ 16：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 300 人（YouTubeLive 配信視聴者数 19 人）

エ　内　　容

「令和４年度　民謡民舞奄美連合大会」は，公益財団法人日本民謡協会奄美連合会が主催し，公益財団法人日本民謡協会に加盟している奄美群島内の各支部に所属する 92 名が，７部門で民謡民舞全国大会への出場権をかけて大会を行った。

各部門の優勝者を決定した後は，優勝者のみが出場する協会賞争奪戦で全国大会の「内閣総理大臣賞争奪戦」出場者を決定した。

大会が始まると出演者はもちろん審査員も緊張の面持ちであったが，昨年度の優勝者や奄美連合委員のゲスト出演者によるシマ唄が披露されると，会場からは拍手や指笛が沸き起こっていた。

総合優勝に輝いた平田まりな氏は，「尊敬する先輩方と共に歌えたこと，そして代表になれたことに感謝と責任の重さを感じる。全国大会は，みんなの気持ちと島のために頑張りたい」と抱負を語った。

大会の最後は，出演者や関係者がステージに上がり，会場全体で六調を踊り賑やかな締めくくりとなった。

最優秀賞及び各部門の優勝者は次のとおり（敬称略）

【協会賞争奪戦　最優秀賞】平田まりな

【青年の部】平田まりな　【成年の部】前山真吾　【壮年の部】中ほず美

【中年の部】平早代美　【高年一部】平田久代　【高年二部】奥田磯子

【高年三部】村山美智子

(8)　2022 奄美　美の競演

ア　開催日時　令和４年 12 月 11 日（日）　14：00 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 250 人（YouTubeLive 配信なし）

エ　内　　容

「2022 奄美　美の競演」は，和装の文化を広めようと美の競演実行委員会が 2004 年から開催しており，今回は，新型コロナウイルスの影響から３年ぶりの開催となった。

国内やドイツ，オーストリアで活動するバイオリニストの信田恭子氏のバイオリン独奏を皮切りに，大島紬や京染めのファッションショーを行った。

色とりどりの華やかな京染着物や上品で落ち着いた色合いの大島紬を身にまとったモデルたちが舞台上に立つと，客席からは，「綺麗」，「素敵」などの感想を言い合う姿が見られ，カメラで撮影する方などもおり，多くの観客を魅了した。

舞踊のプログラムでは，地元で活動している舞踊グループ隆柳勘大社中が「奄美で待って」などを華麗な踊りで披露。また，日本舞踊隆柳流教室に所属する児童らが，「GO ！ GO ！！たつ GO」を可愛いらしく堂々と踊り，イベントに華を添えた。

イベントの終わりには，反物やシルクのストールなどが当たる抽選会が行われ，実行委員会の平塚力也事務局長が司会を行い，当選番号を読み上げると，会場は一喜一憂し，大いに盛り上がってイベントを締めくくった。

平塚氏は，「奄美の伝統芸能及び工芸の魅力を広く伝えたいという思いで県外から出演者を呼んでいる。３年振りの開催となったが，いつも通りいい反響をいただいてうれしい」とイベントを振り返った。

(9)　ほしのうたがきこえる音楽祭

ア　開催日時　令和５年２月５日（日）　13：00 ～ 16：00

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 60 人（YouTubeLive 配信視聴者数 14 人）

エ　内　　容

「ほしのうたがきこえる音楽祭」は，田中一村記念美術館企画展「奄美の星空　写真・アート展」の実行委員を務める荒木マサヒロ氏が主催し，島内外で活躍する歌い手，Ichika Sunny 氏，CHiHO 氏，Quartet Trio Duo，坂上陽美氏，yuka 氏，Kitten Blue，ふよやみ，詠美衣氏，Yuzukana，PINsoup 氏の 10 組が出演し，それぞれ星にまつわるエピソードを語りながら想いの詰まった曲を披露した。

オープニングを飾った Ichika Sunny 氏は，鹿児島県出身で奄美にルーツをもつシンガーソングライターで，ピアノの弾き語りで演奏し，「流星」など３曲を囁くような優しい歌声を披露し，観客も目を閉じながら癒されるように聴いていた。

続いて，奄美在住で，声優としても活動している CHiHO 氏が登場し，優しく語りかけるように歌う曲「星を見に連れてって」や低音で力強く歌う曲「空気と星」など３曲を披露し，会場を盛り上げた。

プログラムの３番目は，奄美市名瀬の LIVE BOX MAYASCO に集まるミュージシャンで結成された「Quartet Trio Duo」。メンバーは，FM たつごうでパーソナリティを務め，ミュージシャンでもある西桂吾氏をはじめとする５人組のバンド。ピアノやギター，ドラムの美しい音色の演奏に合わせて，低く美しい歌声で３曲披露し，観客を楽しませた。

４番目は，日置市生まれで，現在は，奄美市在住の坂上陽美氏。ロックバンドなどで活動したのち，2016 年より山下達郎トリビュートバンド「KOSHA BAND」に参加し，また，当パークの音楽イベントにも数多く出演するなど活動している。今回は，北野武作曲，玉置浩二作曲の「嘲笑」など２曲を，柔らかい優しい歌声で歌い上げた。

５番目は，鹿児島県出身奄美市在住の主婦で 2022 年末から YouTube で弾き語りの音源を投稿しているという yuka 氏が登場。ギターの演奏に合わせて聞き手が癒される優しい歌声で３曲披露した。

前半最後は，西桂吾氏（ギター）とりずむ氏（ボーカル）で結成されたユニット「Kitten Blue」が登場。１曲目は西桂吾氏のギターの演奏に合わせて，２曲目，３曲目はソロで披露し，高く透明感のある歌声で観客を魅了した。

休憩後の後半最初に登場したのは，奄美市在住でカニをモチーフにしたカフェを経営する夫婦のユニット「ふやよみ」。１月 28 日には，関連イベントとしてカニをテーマにしたワークショップも奄美パークで開催していた。ステージでは，ギターと合わせてサンゴなどで手作りした楽器による演奏も交えながら，子供向けの童謡に似た曲を明るくリズミカルな歌声で３曲披露し，会場に来ていた親子も曲のリズムに合わせて手拍子するなど楽しむ様子が見られた。

続いて，東京都狛江市出身で，2013 年より弾き語りなどの音楽活動を行っているシンガーソングライターの詠美衣氏が登場した。詠美衣氏は 2022 年でデビュー 10 周年を迎え，今回のステージでは，奄美をイメージしてアレンジした「トーキョーガール」を明るくリズミカルに歌い，他の２曲は低く情緒に触れるように，また，裏声を交えた高い声で歌うなど，多彩な歌唱を披露し，イベントを盛り上げた。

９番目は，奄美市笠利町在住の深田譲氏（ギター）とあわゆいかなこ氏（ボーカル）の夫婦ユニット「Yuzukana」が登場し，ギターの優しい旋律に柔らかな美しい歌声で３曲を披露し，観客を魅了した。

ラストは，神奈川県出身で，現在，奄美市在住で企画展にも作品を出展している PINsoup 氏が登場し，他の出演者のピアノ，フルート，ドラム，ギターのリズミカルな演奏に合わせて颯爽感のある歌声を披露し，また，本イベントにちなんで西桂吾氏が作詞作曲した「ほしのうたがきこえる」を柔らかな歌声で歌い上げ，会場を盛り上げた。

エンディングでは，荒木氏，西氏及び総合司会を務めた轟木美来氏の３名でイベントの制作過程な

どのトークがあり，最後に荒木氏から「来年も田中一村記念美術館の企画展及び音楽イベントを実施し，多くの人にもっと星に興味を持ってもらいたい。」と語り，和やかな雰囲気の中，イベントは終了した。

(10)　アマービレ吹奏楽団　スプリングコンサート

ア　開催日時　令和５年３月12日（日）　14：00 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約80人（YouTubeLive配信なし）

エ　内　　容

当イベントは，奄美市名瀬在住の約30人の社会人で編成されているアマービレ吹奏楽団による春のコンサートイベントで，平成24年度及び平成27年度から令和元年度にかけて奄美パークで実施しており，今回で７回目である。アマービレ吹奏楽団は週に１回練習しており，奄美市名瀬のAiAi広場での演奏会や奄美市民文化祭，また，島内商店街等のイベントにも参加し演奏している。

なお，今回は，アマービレ吹奏楽団と日頃から交流のある徳之島吹奏楽団からイベントへの参加相談があったとのことで，スケジュール調整の上，５人の徳之島吹奏楽団員も参加してスプリングコンサートを開催した。今回も管楽器や打楽器を中心とした楽器演奏で，ジブリやディズニー，現在話題となっているJ-POPの新曲など美しい音色で合奏を披露した。観客は，様々な音色の楽器による合奏のリズムに乗って，手拍子や身体を揺らしながら演奏を楽しんでいた。

また，アマービレ吹奏楽団の進行担当の団員が，自身や楽団のエピソードを交えた演奏曲の紹介を行い，徳之島吹奏楽団の団員も活動内容について紹介を行うなど演奏以外でも観客を楽しませた。

イベントは，J-POPのメドレーで全プログラムが終了したが，観客から強くアンコールの希望があり，フランスを代表する楽曲「愛の賛歌」を演奏し，盛大な拍手で幕を閉じた。

3　自主企画事業

(1)　奄美の郷ライブステージ

①　華麗なる歌と舞　ならびや歌謡ショー

ア　開催日時　令和４年５月28日（土）　13：30～15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約100人（YouTubeLive配信なし）

エ　内　　容

「奄美の郷ライブステージ」は，奄美にゆかりのある出演者によるイベントを開催することにより，奄美パークを訪れた観光客等に奄美の情報を発信するとともに，地元の方々との交流を図り，また，アーティストの育成にも寄与することを目的に毎年度５回様々なテーマを取り上げて実施している。

１回目は，コロナ禍によりイベントが２年間中止となり，３年ぶりの出演となった「ならびや歌謡グループ」を中心とした歌謡曲や日舞，フラダンスなどのステージイベントを開催した。

イベントのオープニングを飾ったのは，松崎博文氏，泰子氏の２名で，島唄「朝花節」「徳ぬみさ岳」の２曲を続けて披露した。

続いて，ハウオリアイスタジオとやすみんベリーダンスがフラダンスやベリーダンスを「カイプパラオエ」「ビューティアンドザビースト」「コークリエーション」の３曲に乗せて披露した。

その後は，ならびや歌謡グループによるオリジナル楽曲を交えつつ，日舞仙田流，創作舞踊花Ｑのダンスも加えながら和やかな雰囲気で笑顔の中ステージを終えた。

二部構成のイベントで休憩をはさむことなく続けたが，大きなトラブル等はなく，盛況のうちに終了した。

② 奄美の郷ライブステージ②「AMAMI DANCE IN THE PARK」

ア 開催日時 令和４年６月26日（日） 13：30～16：10

イ 場　　所 奄美パーク 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約1400人（YouTubeLive配信視聴者数８人）

エ 内　　容

２回目のライブステージは，地元の㈲アーマイナープロジェクトに企画・運営を委託し，島内７団体のダンススクールによるダンスパフォーマンスを実施した。

当日は，11時頃から続々と来場客が会場周辺に集まり，イベントスタートの13時30分には会場を取り囲むほどの人だかりとなった。

出演者は，３歳から73歳までの老若男女で，龍郷町のダンススクール「LEAP」を皮切りに，それぞれのダンススクールがヒップホップダンス，タップダンス，バレエダンス，チアーダンス，ブレイクダンスといった多彩なパフォーマンスを披露し，会場を盛り上げた。出演者の華麗なダンスパフォーマンスに拍手の音が鳴り響いていたのが，印象的であった。

出演者や来場客からは，「週１回，チームで練習している。緊張したが，みんなで楽しく踊れて楽しかった」「子どもたちが楽しそうに踊っていて，格好良かった」という声があり，出演者も来場客も大いに楽しめたイベントとなった。

③　奄美の郷ライブステージ③「歌声パーク」

ア　開催日時　令和４年９月４日（日）　13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 60 人（YouTubeLive 配信視聴者数 272 人）

エ　内　　容

３回目のライブステージは，敬老の日が近いことにちなみ，「なちかしゃ（シマの方言で“懐かしい”の意味）」をテーマに，誰もが口ずさめる童謡や昭和歌謡を，島で活動するアーティストたちが歌唱するイベントを開催した。新型コロナウイルス感染防止のため「声は出さずに，心の中で一緒に口ずさみましょう」と，司会の西桂吾氏が会場に呼び掛けてスタートした。

トップバッターを飾った yuki 氏は，ミュージカル出演経験もあり，瀬戸内町でボイストレーニングの教室も開いている実力派で，「虹の彼方に」「星に願いを」など映画の名曲を，伸びやかな歌声で披露した。

和田孝之氏は，渋い歌声で「花の首飾り」「旅人よ」など昭和の歌謡曲を披露，また「およげたいやきくん」では，会場から手拍子が送られ楽しいひと時となった。

高校三年生の森永凪琉氏は，今回が初ステージということで緊張していたが，「花」を透明感のある歌声で聞かせ，終わるとホッとしたのか高校生らしい明るい笑顔を見せてくれた。

女性ボーカルと男性ギターの２人組 Kitten Blue は，「この道」「月の沙漠」「小さな木の実」など童謡を中心に，会場を包み込むような優しい歌声と演奏を響かせた。

特別ゲストの藤井空氏は，トランペットとピアノを同時に演奏するという驚きの技で「夜空のトランペット」など３曲を披露，最後はピアノのみで「情熱大陸」を披露し，情熱的で圧倒的なラテンのリズムに，観客も聞きほれていた。

最後は，坂上陽美氏が，「海」や「ふるさと」などの童謡を独特のアレンジで歌い，ステージを締めくくった。

台風接近のため，来場者は少なかったが，Youtube のライブ配信は，藤井空氏のファンの方々をはじめ 300 人弱が視聴した。「懐かしい気分」「全部知ってるから一緒に歌ってる」などのコメントも寄せられた。

④　奄美の郷ライブステージ④「島んちゅ会　でぃ・ま～じんま！」

ア　開催日時　令和４年 12 月 18 日（日）　13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 290 人（YouTubeLive 配信視聴者数 14 人）

エ　内　　容

例年，奄美大島の各市町村から１～２か所をピックアップし，ライブステージの中で各地の伝統芸能を紹介している。今回は龍郷町にスポットを当て，町内で島唄教室を主宰している「島んちゅ会」に北大島伝統の島唄や三線合奏を披露してもらった。また，公民館講座などで活動している隆柳勘大社中による日舞が華を添えた。

会の代表である福山幸司氏と平久美氏の島唄「長朝花節」「俊良主節」でステージは幕を開け，民謡大会で大賞の受賞歴もある二人の歌声に観客は熱心に耳を傾けていた。また，歌詞の内容について平氏から丁寧な説明があり，より島唄を身近に感じることが出来た。続いて，小学生たち７人が島唄の合唱を披露した。高校生が三味線の伴奏を担当し，「ワイド節」では大人たちが踊って盛り上げた。

また，教室の生徒 14 人による三線合奏では「黒だんど節」「つむぎ恋唄」の２曲が披露された。ベテラン勢が，まだ習い始めて間もないという初心者を引っ張り，重なった音色が力強く響いていた。

ステージ後半では，小学生からベテランまで９人がそれぞれの得意曲を個人で披露し，多彩な島唄を聴くことが出来た。

隆柳勘大社中による日舞の披露では，華やかな衣装に身を包んだ女性陣が「糸」「奄美で待って」を美しく揃って舞い，主宰の隆柳勘大氏の「～坂本竜馬～青嵐の夢」は，迫力のある男舞に観客から盛大な拍手が送られていた。また子どもたちによる龍郷町の応援歌「GO ！ GO ！！たつ GO」や「きんたろう」の可愛らしい踊りには，自然に手拍子が沸き起こり大いに盛り上がった。そのほか，島唄も歌った高校生の嶋田晴菜氏が，フラダンスをソロで２曲披露した。

イベントの締めくくりは，「島育ち」「島のブルース」で，平氏が会場に「皆さんも踊りましょう」と呼びかけ，出演者と観客が一緒に輪になって踊った。そのまま「六調」へと続き，踊り出す人もさらに増え，会場は一体感に包まれ，大盛り上がりで終了した。一緒に踊った観客の女性は「コロナでなかなか出られず，久しぶりにイベントに来た。六調を踊ったのも久しぶり。島唄も日舞も素晴らしく楽しかった」と感想を述べた。

⑤　奄美の郷ライブステージ⑤「奄美パークパフォーマンスバトル 2023」

ア　開催日時　令和５年２月 12 日（日）　13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 70 人（YouTubeLive 配信視聴者数７人）

エ　内　　容

「奄美パークパフォーマンスバトル」は，日頃から様々なジャンルの特技を練習している方々に練習の成果を披露する機会を提供し，観客にもそのパフォーマンスを楽しんでいただくことを目的に開催した。

今回は，奄美大島島内から６組･28 人の応募があり，ジャンルは，楽器演奏やこま回し芸，体操，歌，フラダンスなど様々で，各出演者がパフォーマンスを競い合うバトル形式で実施し，観客は，各出場者の迫力ある演目や華麗な演目などを楽しんでいた。

観客と各出場者による投票の結果，優勝者は「節田小学校　アマンディー太鼓」で，リズミカルで迫力ある太鼓の演奏を披露したものだった。時折，太鼓の演奏に合わせて手拍子をとるなど，会場を一体感のある雰囲気に作り上げ，演奏終了後は観客から盛大な拍手が送られた。６年生の児童は，観客の前で披露する最後の舞台であったことから「今日は，いつもより気合を入れて演舞を行った。結果については，他の出場者に優勝候補がいたので，自分達が優勝できたことに驚いたが，優勝出来て嬉しかった」とこれまでの活動を振り返るように感想を述べた。

準優勝は「Sei-chan」，３位は「Ikaikaloa」で，前者はアクロバティックで華麗な体操を披露し，後者はウクレレで心地良い音を奏でる演奏で観客を魅了した。

惜しくも入賞とはならなかったが，「髙城修（こま回し）」「keito&yuq（歌・楽器演奏）」「四谷フラ（フラダンス）」といった出場者もそれぞれ特色あるパフォーマンスを披露し，会場を盛り上げた。

また，あまみエフエムの渡陽子氏は，島口や軽快なトークの司会進行により，観客を大いに楽しませた。

イベントの最後は，出演者全員で記念撮影を行い，楽しく賑やかな締めくくりとなった。

(2)　奄美パークわくわく遊び広場

ア　開催日時　令和４年５月３日（火・祝），４日（水）　10：00 ～ 16：00

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 800 人

エ　内　　容

ゴールデンウイークの子どもの日の前の祝日に２日間をかけて親子連れを対象に子ども向けゲームなどのイベントを開催した。

２日間ともイベントスタートから徐々に親子連れの参加者が増え始め，様々な遊びメニューを体験しようとする多くの親子で賑わった。

午前中は，奄美パーク職員が考案した「スーパーボールすくい」「ペットボトルボーリング」「もぐらたたき」「カップボールゲーム」「お菓子釣り」「塗り絵風船・塗り絵」の合計６種類の遊び体験型のメニューを準備した。景品がもらえるメニューだけでなく，遊ぶだけのメニューもあり，楽しんでもらえるか不安な面もあったが，どのメニューにおいても多くの参加者が笑顔を見せながら楽しんでいた。

午後１時 30 分頃からは，奄美手塾師会による「昔遊び体験会」コーナーを設け，「風車作り」「絵はがき作り」「割りばし鉄砲作り」「円盤作り」「神の目作り」などの工作を体験してもらった。講師の指導のもと，参加した子供だけでなく，同席していた保護者も真剣な表情で夢中になって工作に励んでいたのが印象的だった。

各関係機関へのポスター送付や新聞への掲載，SNS による広報の効果もあり，多くのお客様が来園されたので，奄美パークをより身近な観光施設として感じていただく機会にもなった。

(3)　第３回ウォーターパーティー in 奄美パーク

ア　開催日時　令和４年８月11日（木・祝）　10：30 ～ 12：00

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋外多目的広場

ウ　参加者数　60 人

エ　内　　容

奄美パークの屋外多目的広場を活用し，暑い夏の野外遊びの定番・水鉄砲を使ったチーム対抗バトルゲームを開催した。４人１チーム（小学生以下の子どもが一人以上参加すること）で募集し，15 チームの応募があったが，当日１チームが体調不良のため欠場となり，14 チームが参加した。晴天で気温も高くなる中，各自に熱中症対策をお願いして実施した。

ゲームは，金魚すくいのポイをマジックバンドで頭部に固定し，相手チームのポイを狙って水鉄砲で撃ち合い，破れた数と残った紙の面積によって勝敗を決する方法で実施した。

持ち込みの水鉄砲は，ゲーム前に威力が強すぎないか確認を行い，大型のものでも，危険な水圧になるものはなく全て使用できた。

家族で結成したチームや，友達同士の小学生のみのチーム等，様々な構成だったが，特にハンデ等は設けず試合を行った。大人も子どももびしょ濡れになりながら，ポイを狙って撃ち合っていた。小回りがきき，水除け用に設置したテントに隠れる事ができる子どもたちの方が，大人よりもかえって優勢だった。

４グループによる予選リーグ戦を行い，各グループの勝ち点の多い２チーム，計８チームが決勝トーナメント戦へ進出した。白熱の試合が続き「ポイを手で隠さないというルールを徹底してほしい」という声などもあがり，司会者が公正な試合を呼び掛けながらゲームを進めた。

優勝は，小学５年生４人の「パンナコッタ」で，準優勝は，家族で参加した「シュガー」に決定し，賞品の花火詰め合わせセットを贈った。その他の参加者全員に参加賞としてお菓子の詰合せを配布した。

参加者からは「楽しかった。来年も同じメンバーで参加したい」「暑いかと思っていたが，びしょ濡れになって気持ちよかった」「家族で奄美の夏の思い出が作れた」などの感想が聞かれた。

(4)　サマーワークショップ　ハブのいるくらし～原ハブ屋カードゲームバトル～

ア　開催日時　令和４年８月 28 日（日）13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　参加者数　８組 26 人

エ　内　　容

例年，イベント広場において，観光客の多い夏休み期間中に島唄や郷土芸能などのコンサートイベントを開催していたが，今年は，新型コロナウイルス感染防止対策として，人数制限を設けたワークショップを計画し開催した。

イベントは，㈲原ハブ屋とのコラボイベントとして，原ハブ屋へ勤めている原拓哉氏へ講師を依頼した。イベント前半にハブの生態について学べる原ハブ屋作成の動画を視聴し，動画内容を振り返るクイズを併せて行った。参加者らは，ハブの毒の役割や熱を感知する器官，遭遇した場合の対処法などについて理解を深めた。

後半は，原ハブ屋オリジナルのカードゲームバトル「ハブ拳」，「DokuNarabe」の２種で予選と決勝を含めたゲーム大会を行い，「ハブ拳王」と「毒キング」を目指した。

大会を行う前に講師の原氏よりカードゲームのレクチャーと練習を行い，子どもたちと保護者が，それぞれルールについて学んだ。

初めは慣れないルールの中でゲームを行っていたが，徐々に子ども達も慣れていき，特殊カードを使って，対戦相手と白熱した試合を繰り広げていた。

決勝進出者には，原ハブ屋オリジナル商品の詰め合わせセットを配布し，その他の参加者全員には参加賞として，当日使用した原ハブ屋オリジナルのカードゲームを配布した。

参加者らは「楽しかった。初めは難しかったが勝てて嬉しかった」と笑顔で話し，子どもたちが満足して終えたイベントとなった。

(5)　第５回奄美パークハロウィンイベント

ア　開催日時　令和４年10月23日（日）　10：00～12：00，13：00～16：00

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　午前の部　約290人，午後の部　約350人　計約640人

エ　内　　容

近年，日本でも定着しているハロウィンの雰囲気を楽しめるイベントとして，奄美パークでは５回目の開催となり，ポスターやブログ等で仮装をしての来場を呼び掛けて行った。

イベント広場には，ゲームや塗り絵を楽しめるコーナーを４か所配置し，またステージ上には，バルーンで装飾した２箇所にフォトブースを設けた。古民家は一部の雨戸を閉め，暗がりに電飾を吊るしてお化け屋敷コーナーとした。また，「ハロウィンぱーくま探し」と題し，合言葉の書かれたぱーくまのイラストをアイランドインフォメーション付近に貼り付け，全て見つけた小学生以下の子どもたちにお菓子をプレゼントした。

開場と同時に，思い思いの仮装をした多くの親子連れが訪れ，ポーズを決めた記念写真の撮影やゲームを楽しんでいた。お化け屋敷では，スタッフの迫真のおどかしに泣き出す子どももいた。「ぱーくま探し」では，ヒントの一つを職員が着たマントの背中に貼り付けることで，来場者との交流を図った。

来場者からは「久しぶりの参加型のイベントで，親子でゲームをして楽しめた」「バルーンが豪華で映える写真が撮れた」などの感想が聞かれた。混み合う場面もあったが，写真撮影やゲームの順番など来場者同士で譲り合っていただき，終始，和やかな楽しい雰囲気のイベントが開催できた。

(6)　奄美パーク開園20周年記念　奄美群島伝統芸能の祭典 ″島々の饗宴”

奄美パーク開園20周年記念式典

ア　開催日時　令和４年10月29日（土）　９：00～11：50，13：30～16：40

令和４年10月30日（日）　９：30～11：50

令和４年10月30日（日）　13：30～16：00

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　令和４年10月29日（土）約930人，令和４年10月30日（日）約820人

(YouTubeLive配信視聴者数51人)

エ　内　　容

【島々の饗宴】令和４年10月29日（土）９：00～10月30日（日）11：50

令和３年９月に奄美パークが開園20周年を迎えたことから，これまでいただいたご支援・ご協力に深く感謝するとともに，同じ群島にありながら言葉も風俗習慣もシマ毎に異なり多様性に富む文化・伝統の更なる継承・発展のため，奄美群島有人八島全体の伝統文化，伝統芸能，特産品（食）を一堂に披露し，南島文化の魅力を国内外に発信するとともに，奄美地域の文化振興に資することを目的に，延べ２日間に渡り ″島々の饗宴”を実施した。

初日は，大和村の大和浜棒踊り保存会による勇壮果敢な演舞（棒踊り）で幕を明け，早い時間にも関わらず，来園された観客と演者の一体感のある雰囲気となり，これから12市町村16団体（うち１町１団体が棄権）の演者により２日間に渡って行われる伝統芸能 ″島々の饗宴”に華を添えるオープニングとなった。

その後，天城町から，西阿木名民謡保存会と前野民謡保存会のそれぞれが出演し，寸劇や立踊り，琉球文化圏で唯一残る「田植え唄」などを元気よく披露した。続いて，宇検村の芦検民謡保存会は，もんペ姿の女性がクワやザルを手に伝統の「稲すり踊り」を披露。また，中学生の藤原梨月香氏が島唄を披露。今回，唯一単独で出演した中学生の登場で会場も爽やかな空気に包まれた。

与論町十五夜踊り保存会は，白装束など独特の衣装をまとい，３部作の寸劇や踊りで魅せた。

午後からは，伊仙町の上面縄ションマイカ同好会が登場。太鼓の音に合わせて男女が掛け合いながら歌と踊りを披露した。続いて，喜界町の奄美芸能島唄研究会と続六調太鼓が出演。奄美芸能島唄研究会は，喜界島内外で活躍する多くの唄者が所属している。その後，和泊町の国頭芸能保存会と永嶺字収納米保存会，奄美市の浦上町内会八月踊りが登場。８市町村計12団体が，それぞれの地域で継承されている多彩な伝統芸能を披露した。

２日目は，最初に徳之島町手々民芸保存会が登場。男性は頭から白装束をかぶり，衣・扇・棒を手にして踊り，女性は浴衣姿で両手に花飾りをつけ手踊りをするというもので，他地域の踊りとは違った空気感が漂う踊りであった。

続いて出場したのは，知名町の瀬利覚獅子舞保存会。瀬利覚の獅子舞は，前踊りで女性が獅子を眠りから呼び覚まし，太鼓の音につられて舞台いっぱいに獅子が力強く舞うというもので，見応えのある，また，琉球文化の色が色濃く残る芸能であった。

最後の出演は，‘トリ’に相応しい県の無形民俗文化財に指定されている瀬戸内町の油井豊年踊り保存会による油井豊年踊り。この踊りの特徴は，屈託のない健康的な明るい笑いの表情を持った仮面を被り，米を収穫する工程を踊りで表現するというもので，演技中は，笑いが起こりつつも真剣に見入っている観客の姿が見受けられた。演技が終わると盛大な拍手があがり，あたかもそれぞれの地域の伝統文化を受け継ぐ16団体への敬意の拍手であると感じられた。また，両日とも一般の来場者も多く，観光旅行中に立ち寄ったお客様も「島の多彩な文化に驚いた。ますます奄美のファンになった」と笑顔でお話しされた。

以上，全ての演技が終了したが，２日目に出場予定であった龍郷町の戸口子ども会は，現下のコロナ禍により数々のイベントでの演技が中止となり，練習も自粛していたとのことから，子ども達が出

演に不安を抱えており，主催者，龍郷町役場担当課としても，子ども達の気持ちを考慮し，今回はやむを得ず出場を見送った。当イベントで唯一子ども達だけによる演技だっただけに，残念な結果となった。

ステージイベントの他に，野外（出会いの広場）では，29，30 日の両日にかけて７市町村８店舗による特産品販売も同時開催した。各島特産のフルーツや農産加工品，伝統工芸品などが並び，商品を通して地元をアピールし，各地から訪れた出演者，地元の家族連れや観光客が興味深そうに商品を手に取り，食べ方や特徴を聞くなど，交流もしていた。特産品コーナーは，途中，降り出した雨風が強くなり，急遽，室内に移動するというトラブルもあったが，出店者の迅速な対応で来場者等にも迷惑をかけることなく開催できた。

【20 周年記念式典】令和４年 10 月 30 日（日） 13：30 ～ 16：00

平成 13 年の開園以降，奄美群島全体の観光拠点として奄美の情報発信や伝統芸能などの保存継承を担ってきた奄美パークの開園 20 周年記念式典を開催した。

式典には，塩田康一県知事の他，文化・観光関係機関の代表者，地元選出の国会議員・県議会議員，奄美群島の市町村長などが出席し，宮崎緑園長が主催者挨拶を行った後，塩田県知事，安田奄美市長（奄美群島広域事務組合管理者），向井県議会議員（県議会議長代理），高岡徳之島町長（奄美群島市町村長会長）がそれぞれ来賓者挨拶を行った。

オープニングでは，平成 13 年のパーク開園式典にも出場した地元の節田小学校児童による「アマンディー太鼓」が登場し，元気いっぱいの音色を響かせた。

続いて，宮崎園長が入館者の推移や施設展示のリニューアル，テラスや屋根の大規模補修など 20 年の歩みを紹介した。

続いて，喜界島出身の川畑さおり氏が島唄を披露。唄に合わせて出席者が踊りだす一幕もあった。

最後に，作家で博物学者の荒俣宏氏が「うたの本源をもとめて『しまうた』の霊威」と題し，記念講演を行った。荒俣氏は，奄美群島の日本復帰後，日本中で奄美の音楽が注目された。都会の人たちが，初めて奄美の魅力を知ったのも，1963 年に奄美の歌が４曲も紅白歌合戦に選ばれた時だったなどと述べ，島唄など奄美と歌のつながりを紹介した。

【島々の饗宴】

【物産】

【式典】

(7)　第16回奄美パークわらべシマ唄大会

ア　開催日時　令和４年11月３日（木・祝）　10：00～14：40

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約200人（YouTubeLive配信視聴者数22人）

エ　内　　容

奄美の将来を担う子どもたちが，シマ唄を通じて奄美の伝統文化への理解を深めるともに，その技法を学び，シマ唄文化を広く後世に伝えることを目的にわらべシマ唄大会を開催した。

参加者は小学校低学年の部に13人，小学校高学年の部に11人，中学生の部に９人の総勢33人で，例年に比べて少ない人数での開催となった。これは，当日が「文化の日」ということもあり，群島内で同種多様のイベントが催されたことによるものと推察する。

出場者を地域別に見ると，奄美市笠利町を中心に，奄美市名瀬，龍郷町，宇検村，大和村から出場があり，それぞれの地域による唄い方の違いなども楽しむことができた。

来場者は，本選出場者のシマ唄はもちろん，ゲストに招いた令和３年度各部門優勝者３人（奈良恵美・新城琉花・朝岡歩紀花）のシマ唄も楽しんでいる様子だった。

藤山審査委員長の講評では「とても甲乙のつけがたい内容で，優勝できなかった子も来年は逆転できる可能性がある。」と評価した。また，「今年は大和村から初出場があり嬉しい一方，瀬戸内町からの参加がなかったのが残念であった。来年は，島内全市町村から出場し，皆さんと一緒に唄いましょう。」と呼びかけた。

○小学生低学年部門

優　勝　土谷　笑鈴（朝日小学校３年）

準優勝　久保　心春（朝日小学校３年）

第３位　泉　璃音（朝日小学校２年）

○小学生高学年部門

優　勝　津畑　杏朱（奄美小学校６年）

準優勝　大山　仁奈（奄美小学校６年）

第３位　麓　世羽璃（名瀬小学校６年）

○中学生部門

優　勝　千田　真帆（赤木名中学校３年）

準優勝　奥　野乃佳（朝日中学校１年）

第３位　藤原　梨月香（田検中学校２年）

小学生低学年の部

優勝　土谷　笑鈴

準優勝　久保　心春

第3位　泉　璃音

小学生高学年の部

優勝　津畑　杏朱

準優勝　大山　仁奈

第3位　麓　世羽璃

中学生の部

優勝　千田　真帆

準優勝　奥　野乃佳

第3位　藤原　梨月香

(8)　第16回奄美パーク子どもクリスマス会

ア　開催日時　令和４年12月25日（日）　13：30～15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約1,200人（YouTubeLive配信視聴者数108人）

エ　内　　容

「子どもクリスマス会」は，冬の風物イベントとして地域の子どもたちを対象とし，その家族や友達との楽しい思い出を提供することを目的として開催した。また，昨年に引き続き，新型コロナ対策として来場しなくてもイベント内容を視聴できるようYouTubeでLive配信を実施した。

当日は，イベント開始から終了までに約1,200人が来場し，YouTubeLive配信の視聴者は，平均77人で，最大視聴者数は108人を記録した。

最初のプログラムは，平成25年度から出演している奄美看護福祉専門学校の生徒によるステージで，指遊びなどのレクリエーションやダンスパフォーマンスを披露していただいた。

ステージパフォーマンスを始める前に，専門学生の一人が「今日は，一緒に楽しみましょう！」と声掛けをすると会場に来ていた多くの子どもたちから元気な返事があり，楽しい雰囲気の中でプログラムがスタートした。

レクリエーションでは，子どもたちは，生徒の動きを真似しながら少し慣れない動きに戸惑いながらも笑顔で楽しんでいた。

また，幼児に人気のある番組「おかあさんといっしょ」でお馴染みの「からだダンダン」やクリスマスをテーマにした「ジングル・ベルロック」の曲に合わせて，生徒と一緒に小さな子どもが体を揺らしながら踊ったり，保護者も手を叩いたりして楽しむ様子が見られた。

次のプログラムでは，鹿児島市を拠点に活躍する（株）JACKPROJECT.のK@ito氏がマジックやジャグリングなどのステージパフォーマンスを披露した。

最初に手やロープを使ったマジックショーが行われ，両手同士を握ったはずが，手がなぜかすり抜けたり，２つに切り離したロープを繋げて１本にしたりするマジックに，会場からは「何でそうなるの？」といった驚きの声とともに拍手が巻き起こった。

また，K@ito氏が観客から１人の子どもをステージ上に招き，皿回しを体験させたり，４個のボールを使った高速ジャグリングや10個以上のブロックを使って，片手で支えながら瞬時に水平方向に積み上げる難易度の高い演技や水晶玉が空中に浮いているように見える幻想的な動きを披露し，会場を盛り上げていた。

また，ラストには，K@ito氏が２つの光る棒を使って様々な回転を行う演技を披露し，何種類もの美しい光の模様が浮かび上がる光景に歓声と拍手が沸き上がり，パフォーマンスショー終了後にも盛大な拍手が鳴り響いていた。

プログラムの最後はプレゼント抽選会を実施し，協賛をいただいた各企業や協賛品の紹介，当選番号の発表を行った。観客の中から豪華景品の当選者が出た際は特に大きな盛り上がりを見せ，大盛況のうちに終了した。

当選番号の発表については，イベント終了後も公式HPとアイランドインフォメーション付近に設置した掲示板で周知を行った。

(9)　奄美パーク新春寄席

ア　開催日時　令和５年１月８日（日）　13：30 ～ 15：00

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 260 人（YouTubeLive 配信視聴者数 114 人）

エ　内　　容

新しい年を迎え，普段，日本古来の伝統芸能に触れる機会が少ない奄美の方々に生の落語を提供することで，奄美パークを身近に感じてもらい，新春を笑って過ごしていただけるよう，恒例となった新春寄席を開催した。

今回は，三遊亭鬼丸氏（真打）を始め，笑福亭べ瓶氏（上方落語　階級制度なし），伊藤夢葉氏（手品）の３名が出演した。

新春寄席も新型コロナウイルスの影響で３年振りの開催となり，楽しみにしていた方も多く，江戸前の落語だけでなく，大阪弁で語る上方落語や手品も加わり，子どもから大人まで多くの観客を魅了し，会場は終始笑いの渦につつまれ，大盛況であった。

最初の一席は，笑福亭べ瓶氏が登場。小話で，観客を落語の世界に取り込んだところで，落語「時うどん」を披露した。うどんの立ち食い店で知恵のはたらく兄貴分と，少し足りない弟分が代金をごまかす噺となっており，一人四役を演じる笑福亭べ瓶氏が巧みな話術で会場を盛り上げた。

続いて，三遊亭鬼丸氏が登場し，落語「目薬」を披露した。夫婦で目薬の差し方について口論する噺で，最後に，おかみさんが，大きなおならをして旦那の顔に粉薬を飛ばすという落ちで，会場には大きな笑いが響いた。

続いて，奇術師の伊藤夢葉氏が登場。鞭や知恵の輪の一種であるチャイリング，ロープなど，多種多様なパフォーマンスを漫談を交えて披露し，会場を沸かせた。

三遊亭鬼丸氏の二席目は，これまで何度か訪れた奄美大島でのエピソードを語った後，落語「親子酒」を披露した。酒好きな大旦那と若旦那の親子が禁酒する噺で，お酒に酔った雰囲気を軽妙な動きでたっぷり演じた。

また，演目終了後には，三遊亭鬼丸氏の手ぬぐいや扇子をプレゼントする抽選会も行った。

来場者からは，「落語家の話し方が上手く，たくさん笑った。マジックも驚きの連続で面白かった。」などの声があり，新春らしいイベントとなった。

(10)　奄美パーク初春唄あしび

ア　開催日時　令和５年１月15日（日）　13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　来場者数　約250人（YouTubeLive配信視聴者数16人）

エ　内　　容

「唄あしび」とは，三味線に合わせて座の人々が次々と即興で唄を出し合い，掛け合いをし遊ぶように唄う奄美の伝統文化である。この伝統にちなんで，島唄や舞踊，エイサーなどで新春を祝うステージイベントを開催した。

トップバッターで登場したのは，奄美看護福祉専門学校「エイサー部」。12名の部員の皆さんが，大太鼓や締め太鼓，パーランクーと呼ばれる女性が持つ小太鼓などによる演奏を，琉球音楽の響きに乗せて披露した。勇壮な大太鼓の重低音に，軽やかな小太鼓の響きが重なり，息の合った掛け声や動きに，観客からも自然に手拍子が沸き起こっていた。

続いて瀬戸内町古仁屋で活動している「永井三味線教室」の皆さんが，奄美大島南部に伝わる島唄（ヒギャ唄）を，小学生からベテランまで総勢22名による合奏形式で披露した。大人数にもかかわらず，三味線と唄の響きが美しく揃い，また「ワイド節」など賑やかな曲では，古仁屋中学校三年生の女子生徒が披露した指笛（ハト）の素晴らしい響きに客席がどよめき，大きな拍手が送られた。

次に日本舞踊の「藤川流古仁屋教室」から，３名の方が「寿ぎの四季」を踊った。オレンジ色の揃いの着物で，扇の所作も美しく，新春を祝うにふさわしい舞であった。

続いての登場は，奄美大島で活動するゴスペルグループ「アマゴス」。６名のメンバーが，「Oh Happy Day」などのゴスペル曲やミュージカルの楽曲を，パワフルで声量豊かなハーモニーで聴かせた。年配の観客が多かったが，メンバーの呼びかけで英語の歌にもマスク越しに合いの手を入れたり，手拍子を入れたりしてノリノリで楽しそうな様子だった。

後半は，「永井三味線教室」のメンバーが，中高生を中心に個人で島唄をじっくりと聴かせ，主宰の永井しずの氏も「一切朝花節」など２曲披露し，さすがの唄声に観客も聞きほれていた。

続いて「藤川流古仁屋教室」主宰の吉岡昭子氏が，「加計呂麻慕情」をひとりで情感たっぷりに踊った後，テンポのいい「ほこらしゃ節」を９名で踊り，ステージを締めくくった。

最後に，出演者によるお祝いの投げ餅を行い，飛び交う餅に客席はおおいに盛り上がった。そのまま締めの「六調」へと続き，会場全体で踊っているような賑やかで楽しい雰囲気で公演を終えた。

第４ 田中一村記念美術館企画事業

1　奄美関連作家による企画展

(1)　平和への想い～書と歌による次世代へ語り継ぐ歴史の継承～

ア　開催期間　令和４年４月 16 日（土）～５月 15 日（日）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　入館者数　4,003 人

エ　内　　容

福井県出身の書道家，浜野龍峰氏と奄美出身のアコースティックユニット Nana（ボーカル：萩原きよみ氏，ギター：大野正喜氏）による作品展を開催した。

会場では，Nana が歌う「天人菊の丘」の曲を流し，その歌詞や戦禍，災害などで命を落とした人々にささげる言葉など，生死にまつわる作品や悠々と大空を舞う鳳凰をしたためた縦３メートル，横 13 メートルの大型作品など計 17 点を展示した。

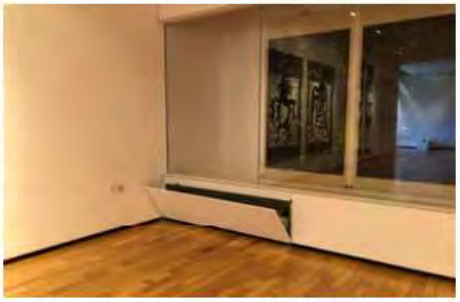
５月 14 日（土）に企画展示室で開催した Nana によるライブでは，81 名の来場者を前に４曲演奏を行い，中には涙を流しながら歌に聴き入っている観客の様子も見られた。龍郷町の一村キッズクラブの子どもたちも知っている歌を口ずさみ，今回の企画展のタイトルにマッチした時間となった。

来館者からは，「奄美に住んでいるのに知らなかった悲しい過去を知って感じる事ができた。」「字の迫力や優しさを感じながら見ていたが，説明を聞いて流れている音楽を聴き作品を見ると，涙が止まらなかった。子どもの大切さ，命の大切さの重みをすごく感じた。」と感想をいただいた。

〇関連イベント

・わきゃステージ in パーク「平和への想い～書と歌による次世代へ語り継ぐ歴史の継承～」オープニングイベント（奄美の郷　屋内イベント広場）

令和４年４月 17 日（日）　13：00 ～ 15：30



(2)　FROM BEFORE BIRTH TO AFTER AMAMI：FRAGMENTS FROM A LIFE IN ART「ブレントウィルソンの人生の記録」

ア　開催期間　令和４年７月 24 日（日）～８月 14 日（日）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　入館者数　2,123 人

エ　内　　容

NPO 法人アマミーナが主催となり，ペンシルバニア州立大学美術教育学視覚芸術科名誉教授，ブレントウィルソン氏のコラージュ（貼り絵）による作品を展示した。

展示作品は「我が人生の集大成」として，ブレント氏の誕生前から後生を想像的に表した人生を 12 のシリーズに分け，56 点を展示した。

初日のオープニングトークでは，新型コロナウイルスの影響で来日できなかったブレント氏と会場を ZOOM で結び，時代ごとの作品説明を行った。アートワークショップでは，オール海氏によるコラージュ制作を行い，７人の親子が参加した。参加者は，持参した家族の思い出写真を切り取り，絵具で描いた作品と合わせて世界に一つだけのコラージュ作品を完成させた。

来館者からは，「美術館で沢山の英語を聞くことができて良かった。アートもブレント氏の人生も素晴らしかった。」「ピカソみたいなものを感じ，現実にはない奇妙なものを絵ではなく，切り絵で表現しているところがいいと思った。」と感想をいただいた。

〇関連イベント

・オープニングトーク（企画展示室）

令和４年７月 24 日（日）　10：00 ～ 11：30　参加者数 15 人

・アートワークショップ（奄美の郷　屋内イベント広場）

令和４年７月 24 日（日）　13：00 ～ 15：00

● 展示風景

● オープニングトーク

● アートワークショップ

(3)　奄美世界自然遺産登録１周年記念写真展「奄美悠久の自然と文化」

ア　開催期間　令和４年８月20日（土）～28日（日）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　入館者数　1,114人

エ　内　　容

鹿児島県写真協会が主催となり，奄美の世界自然遺産登録１周年を記念して，奄美や鹿児島の写真作家による270点の作品を展示した。

初日のオープニングトークでは，宮崎緑館長の挨拶後，県写真協会会長の村上光明氏と奄美大島の写真家浜田太氏，自然写真家の常田守氏の３人に，撮影時の苦労話や自然保護活動の話をしていただいた。最後には，世界自然遺産登録から１年が経過し，これからもこの奄美の環境を守っていくために，保護活動や写真を通して豊かな自然の素晴らしさを次世代にも伝えていき，島民全員で未来に希望が持てる島にしたいと参加者に伝えトークイベントは終了した。

来館者からは，「作品から奄美の素晴らしさを存分に感じ，島に生活していても接することのできない時間を感じることができた。」「素晴らしい写真を拝見し，心が豊かになった。このような機会を通して，奄美の大自然と豊かな文化・伝統のある地域性に改めて感動することができた。」と感想をいただいた

〇関連イベント

・オープニングトーク　（企画展示室）

令和４年８月20日（土）　11：00～12：00　参加者数29人

● 展示風景

● オープニングトーク

(4)　ワークス展 in 奄美

ア　開催期間　令和４年 11 月 27 日（日）～ 12 月 18 日（日）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　入館者数　3,212 人

エ　内　　容

奄美在住作家３人と新芸術協会会員４人の計７人による作品 57 点を展示した。

奄美の作家，星村義一氏は，若い時に訪れ人生が変わったというヒマラヤの氷河などを油彩画で表現し，久保井博彦氏は，ガジュマルの根に注目し，たくましく根付いている様を油彩画で力強く表現。岬眞晃氏は，50 年前に東京で自分が描きたい作品を模索しながら様々な描き方に挑戦し生まれたアクリル画作品や，奄美に戻り，初心に返った時改めて感じた奄美の自然の素晴らしさを油彩画で表現した。

新芸術協会会員の小出真由美氏は，幼い頃に両親に買ってもらった絵本や小説の作品から独自の視点で捉えたファンタジーな世界を銅版画で表現し，後藤環氏は，抽象画で自分で感じた世界観を様々な色を使って描いた抽象画やよく見ると猫が隠れている遊び心を入れた作品をアクリル画で表現。池田睦月氏は，家に飾る植物を永遠に見ることができるようにと日本画で作品を制作。大森ゆかり氏は，大好きな海外旅行で，ふと目にとまった風景やひまわりなどの植物の絵を油彩画で表現した。

初日のオープニングトークでは，作家一人ずつが丁寧に作品の紹介を行い，絵を描いた当時，どういった想いで描いていたか，特に思い出深い作品は何かなど来場者からの質問に答えていた。

来館者からは，「作者の個性的な画風，絵画で伝えたいこと，感じて欲しいことを示されています。魂がゆさぶられました。今後も美術館の企画展を通じて自分の感性を豊かにしていきたいと思いました。」「どれもすごい迫力とエネルギーパワーで圧巻でした。星村氏の作品“氷の世界”をじっくり観た時，写生とは生を見て肌で感じて表現することで，厳しさや美しさ，迫り来る力を感じ圧倒されました。」と感想をいただいた。

〇関連イベント

・オープニングトーク　（企画展示室）

令和４年 11 月 27 日（日）　11：00 ～ 12：00　参加者数 21 人

● 展示風景

● オープニングトーク

(5)　奄美の星空　写真・アート展

ア　開催期間　令和５年１月28日（土）～２月12日（日）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　入館者数　2,266人

エ　内　　容

奄美観光大使で星空写真家の荒木マサヒロ氏を筆頭に，奄美で活動しているカニアーティストのあおきさとみ氏，木の実クリエイターの成実氏，色彩と歌のアーティストのPINsoup氏に，ゲストとして，第20回奄美を描く美術展大賞の画家青木薫氏，東京で絵描きシンガーソングライターとして活躍する詠美衣氏,名古屋市在住で布花仕事作家の加藤麻砂子氏を迎え,奄美の星空写真や作家がイメージした奄美の星空を，工芸作品及び水彩画で表現した作品30点を展示した。

初日より多くの来場者があり，ギャラリートークでは，作家による作品解説があり，工芸作品の一つで点描画の描き方や写真の撮影方法など，作家に直接聞いて学ぶ来場者の姿が見られた。

企画展示中は，ワークショップを４回開催し，１月28日の前半は，荒木マサヒロ氏によるスマホ写真講座と題して，奄美の自然の風景を一眼カメラではなく，スマートフォンで撮影した後，**「Light room」というアプリケーションを使って写真を加工し，色彩をより奄美の原色的な色に近づけ**る方法を参加者にレクチャーした。

後半は，カニアーティストのあおきさとみ氏によるカニの生態説明や，参加者がカニになりきって脱皮するという表現遊びを行った。参加者は脱皮をするカニの気持ちを考え，好きな場所を選び横になった後，新聞紙を覆い被せ，好きなタイミングで脱皮していた。あおき氏は脱皮することで，新しい自分に生まれ変わるプラスのイメージをしてみることが大事と参加者に伝えていた。

２月11日の前半は，荒木マサヒロ氏による写真講座２回目を開催した。瀬戸内町から来た方や偶然観光で島を訪れた方も飛び入り参加し，オススメの撮影スポットを聞く場面もあった。

後半は，木の実クリエイターの成実氏による点描画講座を行った。点描画は，絵画などにおいて線ではなく点の集合や非常に短いタッチで表現する技法で，今回は，初心者でも描くことのできる月を題材に，ボールペンを使って講座を行った。点描画の作成は，集中力が必要な作業であったので，参加者は時折休息を挟みながら，それぞれの月を完成させた。

２週間の開催期間で，多くの来場者に奄美の星空を，写真や絵，工芸作品，歌を通じて知っていただける良い企画展とすることができた。

来館者からは，「どの作品も初めて触れる感性で，ひとつひとつの作品に度肝を抜かされたり，感動したり，改めて島の自然の素晴らしさと，豊かな感性を持った作家さんたちの心に触れることができ，とても良い時間が過ごせました。」「光沢紙だけではなく，和紙や布を使った写真の印刷方法に衝撃を受けました。それぞれの作家さんからも解説付きで幸せな時間を過ごすことができ，奄美がさらに好きになった。」と感想をいただいた。

〇関連イベント

・ギャラリートーク（企画展示室）

令和５年１月28日（土）　11：00～12：00　参加者数27人

・ワークショップ（奄美の郷　レクチャールーム）

令和５年１月28日（土）　14：00～15：00　写真講座　参加者数10人

15：00～17：00　カニ講座　参加者数７人

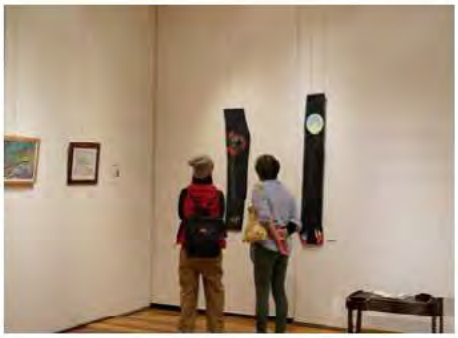
令和５年２月11日（土）　14：00～14：50　写真講座　参加者数６人

15：00～17：00　点描画講座　参加者数６人

・わきゃステージinパーク「ほしのうたがきこえる音楽祭（奄美の郷　屋内イベント広場）

令和５年２月５日（日）　13：00～16：00

● 展示風景・ギャラリートーク



● ワークショップ

(6)　第42回奄美市児童生徒書き初め展・奄美書道協会会員展

ア　開催期間　令和５年３月７日（火）～12日（日）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　入館者数　1,081人

エ　内　　容

奄美書道協会が主催する「第42回奄美市児童生徒書き初め展・奄美書道協会会員展」は，会長の南隆光氏が，名瀬市内で例年開催している展示会を笠利町，島外の方々にも見ていただきたいと田中一村記念美術館で初開催した。

書道協会会員の掛け軸作品42点と，奄美書き初め展の入賞・入選作品100点を展示し，日頃の書道活動の成果を多くの来場者に見ていただいた。地元の来場者も多く，手書き文字に対する想いや，知り合い同士で作品について語り合う姿も見られた。来場者からは，「今年は家から近い場所だったのでありがたかった。美しい文字を見て穏やかな気持ちになった。また，子どもたちの作品も元気がありとても良かった。」と感想をいただいた。

2　第68回県美展　奄美関連作家展

ア　開催期間　令和４年６月12日（日）～７月３日（日）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　入館者数　2,376人

エ　内　　容

第68回県美展で入賞･入選した奄美関連作家の作品を，洋画７点，日本画１点，彫刻１点，工芸１点，写真11点の計21点展示した。

６月12日のフロアトークでは，鹿児島県美術協会会員の稲光政氏と久保井博彦氏による作品解説と，出品した作家数名が自らの作品の紹介を行った。

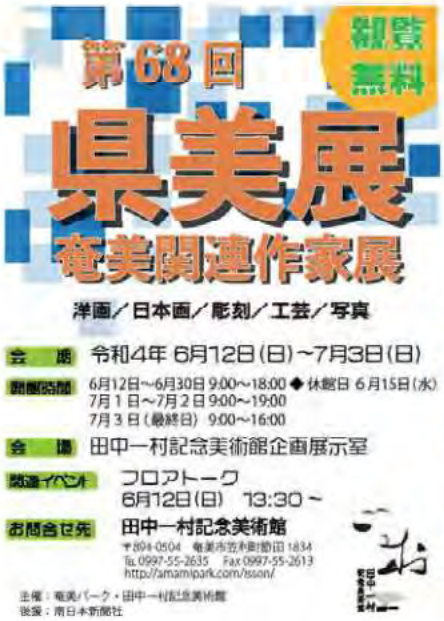
今年度は，全体の作品は少なかったが，県美展大賞が奄美在住作家であったこと，また，田中一村記念美術館賞が工芸作品であったことから，見応えのある展示会となった。

来館者からは，「群島内にも素晴らしい芸術家がいることを知れる良い機会だった。」「どの作品も素晴らしく，毎年このような展示会を開いていただきありがたい。今後もこの展示会を継続していただきたい」などの感想をいただいた。

○関連イベント

・フロアトーク　（企画展示室）

令和４年６月12日（日）　13：30～14：30　参加者数31人



3　美術講演会

ア　開催日時　令和４年８月７日（日）　10：30 ～ 12：30

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入館者数　15 人

エ　内　　容

一村研究の第一人者である千葉市美術館学芸課長の松尾知子先生を講師に招き，2010 年に開催された「田中一村　新たなる全貌」展以降に発見された新しい作品や，一村の代表作「アダンの海辺」の光学調査とその研究成果について講演していただいた。新たなる全貌展後の全 10 年間で，一村の作品が多くの方に認知してもらったこと，作品研究を続けることで，一村の作品に対する想いなどが分かり，松尾先生は，今後も一村作品を読み解いていきたいと締めて講演会は終了した。

聴講者からは，「貴重な話や資料を見ることができ良かった。次に一村作品を観るときにはきっと違う視点で観ることができると思う。」「２時間の講演会では時間が足りず，まだまだ話を聞きたかった。一村作品研究の第一人者である松尾先生の一村に対する想いも伝わる良い講演会だった。」などの感想をいただいた。

4　第１回奄美を写す写真展

ア　開催期間　令和４年５月21日（土）～６月５日（日）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　入館者数　1,915人

エ　内　　容

美しい自然や独特の地域文化などに恵まれた「奄美」をテーマに，全国の写真愛好家から広く作品を募集し，作品展を開催することで，奄美の素晴らしさを全国に発信することを目的に奄美を写す写真展を開催した。

第１回展は，全国から211点の素晴らしい作品が寄せられ，厳正な審査の結果，入賞５点，入選139点の作品が選ばれた。

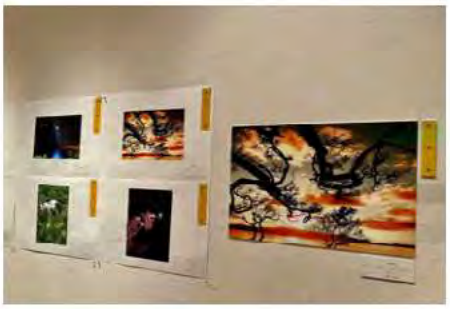
審査員長を務めた武部守俊氏（芸術写真家）は，「作品の自由度を上げるために写真の加工を許可することにより，応募された作品は自由度が高く，他の写真展では見られないような写真展となった。どの作品も，奄美の香りのようなものが伝わってきて，心に沁み込んでくるような写真ばかりでした。」と評した。来館者からは，「奄美空港のギャラリーや市美展など圧倒される写真展も良いですが，身近に感じることのできる写真展で楽しく観覧できた。」「普段見慣れた風景や自然が素晴らしく写っていて，奄美に宝がたくさんあると改めて感じた。とても素晴らしい企画展だった。」などの感想をいただいた。

【関連イベント】

授賞式（田中一村記念美術館　企画展示室）　令和４年５月28日（土）　14：00～

○大賞　ROCKY ARAKI　　○優秀賞　髙 優一郎　　○優秀賞　山根香岐　　○優秀賞　餅田真理子

○優秀賞　屋宮央哉



大賞作品「ラッセンがやってきた」 ROCKY ARAKI

5　第12回田中一村記念スケッチコンクール作品展

ア　開催期間　令和４年９月11日（日）～25日（日）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　入館者数　1,331人

エ　内　　容

奄美群島内の小・中学生を対象に，奄美の自然や生活，伝統行事などをテーマにスケッチ作品を募集し，1,170点の応募作品のうち，入賞・入選した407点を展示した。対象をよく観察して写実的に描かれた作品から，技法や彩色を工夫した個性豊かな作品まで幅広い作品が集まり，奄美の自然や文化を愛する心や作品に対して一生懸命に取り組んだ様子などを感じとることができる作品が多かった。

９月24日（土）に実施した授賞式には，受賞した児童生徒９人とその家族や関係者が参列し，賞状授与後は，受賞者によるギャラリートークを行った。受賞者らは，他の受賞作品の制作過程や学芸専門員による講評を聞き，今後の絵画制作の意欲増進や作品への理解を深めることができるギャラリートークとなった。

来館者からは，「孫の作品を見ることができた。表情豊かで見ていて楽しい作品が多く，ポストカードにしたい作品もあり，新しい未来の画家たちが楽しみになった。」「我が子の絵が入選すると思わなかったので嬉しかった。作品が展示され，子どもも喜んでいた。」と感想をいただいた。

【関連イベント】

授賞式（田中一村記念美術館　企画展示室）　令和４年９月24日（土）　14：00～

○低学年の部

田中一村記念美術館賞	名越　悠（国頭小学校１年：和泊町）
大島教育事務所賞	窪　悠友（亀津小学校１年：徳之島町）
優秀賞	福島　好希（喜界小学校２年：喜界町）
優秀賞	堀　有紗（奄美小学校１年：奄美市）

○中学年の部

田中一村記念美術館賞	渡瀬　ゆり（朝日小学校４年：奄美市）
大島教育事務所賞	重　樹凛（小宿小学校３年：奄美市）
優秀賞	福島　好希（伊津部小学校４年：奄美市）
優秀賞	小園　健生（亀津小学校４年：徳之島町）

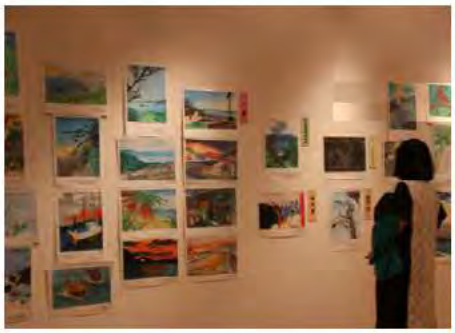
○高学年の部

田中一村記念美術館賞	小牧　仁郎（大勝小学校６年：龍郷町）
大島教育事務所賞	栫　虹晴（小宿小学校５年：奄美市）
優秀賞	田中　琉介（田皆小学校６年：知名町）
優秀賞	石田　朋花（亀津小学校６年：徳之島町）

○高学年の部

田中一村記念美術館賞	清水　雅（面縄中学校３年：伊仙町）
大島教育事務所賞	野田　希和（朝日中学校１年：奄美市）
優秀賞	武島　夢菜（面縄中学校２年：伊仙町）
優秀賞	中林　姫花（諸鈍中学校３年：瀬戸内町）

令和4年度 第12回
田中一村記念スケッチコンクール
作品展
令和4年
会期 9月11日(日)～9月25日(日)
※9月21日(月)は休館日
時間 8時～18時
※入館は17時30分まで
場所 奄美パーク・田中一村記念美術館 企画展示室
観覧無料
田中一村記念美術館



田中一村記念スケッチコンクール
授賞式

6　第21回奄美を描く美術展

(1)　本展

ア　開催期間　令和４年10月23日（日）～11月20日（日）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　入館者数　4,919人

エ　内　　容

美しい自然や豊かな人情，独特な地域文化などに囲まれた「奄美」をテーマに，全国の美術愛好家から作品を募集し，作品展を開催することで奄美の素晴らしさを全国に発信しようと始まった本美術展は，地域企業や美術愛好家など，多くの方々の御支援により開館以来毎年開催している。

第21回展では，全国から103点（油彩・水彩・アクリル・日本画など）の作品が寄せられ，厳正な審査の結果，入賞12点，入選48点の合計60点の作品を展示した。

今回,審査員長を務めた安達博文氏（富山大学芸術文化学部名誉教授）は,「奄美を描く美術展には,奄美在住の方が日常の中で感じたことを描いた作品から，島外の方が南国のイメージを深めながら描いた作品など，様々な視点や異なる切り口から描かれた素晴らしい作品がたくさん集まっており，どの作品にもそれぞれの良さがありました。田中一村も独自の視点で奄美を表現することに成功した一人だと思います。また，様々な素材を活かして，奄美を表現するという行為は，奄美の魅力を触覚的に再発見することに繋がります。奄美を描く美術展が奄美の魅力をより引き立てるものとして，これからも発展していくことを期待します。」と評した。

10月29日（土）は,企画展示室にて授賞式を行い,大賞を受賞した京都府在住の嶋田敏夫氏を始め,８人の入賞者が出席した。奄美を描く美術展実行委員会の宮崎緑会長より賞状とトロフィーを授与していただき，大賞の嶋田氏からは,「水彩画歴35年，京都で絵画教室を営みながら，今回新たな画風に挑み，人生で初めて公募展に応募し，大賞と分かった時は，驚き，脅威，歓喜など様々な感情が入り交じり，絵画活動を何度も諦めようと思ったこともあったが，絵を描き続けて良かったと思った。22回展以降も作品を描き，応募を続けて行きたい。」とコメントをいただいた。

来館者からは,「毎年楽しみにしている美術展で，今年の作品も素晴らしく，ため息が出ました。私達の住んでいる奄美は，こんなにステキな所だと改めて認識させられました。」「奄美の美しさがたくさん込められていて，回を重ねるごとに充実した美術展になっているように思えます。」と感想をいただいた。

【関連イベント】

授賞式（田中一村記念美術館　企画展示室）　令和４年10月29日（土）　11：30～

○奄美を描く美術展大賞　　嶋田　敏夫（京都府）

○田中一村記念美術館賞　　中村　哲郎（奄美市）

○優秀賞　　平野　良光（霧島市），餅原　宣久（鹿児島市）
　　田中　孝林（福岡県），上野　泰徳（東京都）
　　KUMA-YOSHI（神奈川県）

○佳作

・奄美の海賞　　村田　優佳（鹿児島市）

・奄美の空賞　　植村　恭子（鹿児島市）

・奄美の杜賞　　Tako★MASARU（神奈川県）

○ソテツ賞　　新島　修二（埼玉県）

○コンロンカ賞　　盛　こころ（奄美市）

(2) 巡回展

ア 開催期間 令和4年12月3日（土）～11日（日）

イ 場　　所 奄美市市民交流センター（現アマホームPLAZA） マチナカギャラリー

ウ 入館者数 222人

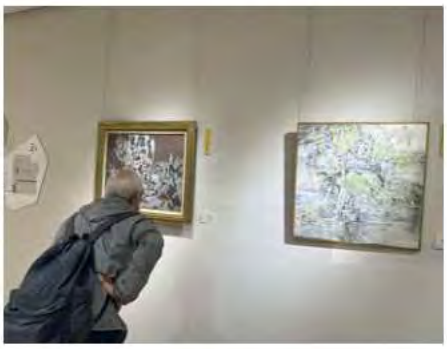
エ 内　　容

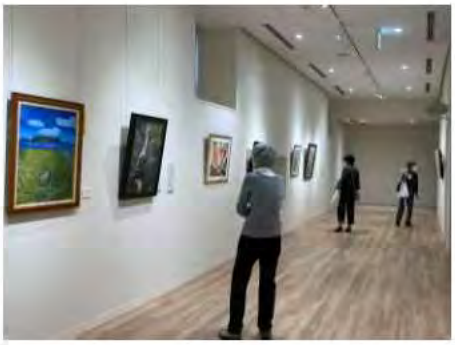
奄美を描く美術展は，平成22年から巡回展をスタートし，多くの方に奄美の素晴らしさを絵で伝えるため，群島内の市町村や節目などの記念の年には島外でも巡回展を開催している。（第15回記念巡回展：美術家連盟画廊（東京都），第17回田中一村生誕110年記念巡回展：鹿児島市立美術館，第20回記念巡回展：渋谷エクセルホテル東急（東京都））

12回目の巡回展となる今回は，奄美市市民交流センターにて，入賞12点に賞候補14点を加えた26点の作品を展示した。田中一村記念美術館までは遠く，車などがない高齢者の方や，市民交流センター内で行われていた各種イベントの合間などに来場していただく方が多く見られた。

来館者からは，「色々な人のアイディアの絵を多く見られ面白かった。型にはまらない独特な世界観があり，表現の仕方は沢山あるのだと感じた。」「昨年できたばかりの市民交流センターでの展示は，田中一村記念美術館とは異なり室内の色が白く，コンパクトな感じで良かった。」と感想をいただいた。

奄美市市民交流センター
AMAMI City Community Center





第 21 回 奄美を描く美術展

第 21 回 奄美を描く美術展大賞

継承のカタチ①　　S 15　水彩

嶋田　敏夫（京都府）

南国特有の強烈な色彩ではなく，新しい視点で，淡い色調のリズムを使いながら南国のイメージを美しく表現することに成功している。様々な動植物の表情がユーモラスに表現されており，奄美を見事にとらえられている。

本　展

入場無料

会期：令和4年 10 月 23 日（日）～11 月 20 日（日）
（休館日：11 月 2 日（水），11 月 16 日（水））
開館：午前 9 時～午後 6 時（※最終日は午後 4 時）
会場：田中一村記念美術館 企画展示室（鹿児島県奄美パーク内）

巡回展

入場無料

会期：令和4年 12 月3日（日）～ 11月 20 日（日）
開館：午前9時～午後 5 時
会場：奄美市民交流センター　2階　マチナカギャラリー

田中一村記念美術鑑賞

華ソテツ　　F 15　日本画

中村　哲郎　（奄美市）

安定した構図，渋い色調の中にもいろんな色を感じさせる。モチーフの形から面白いものを作者の中で反芻して表現し，不思議な世界をつくっている。背景の処理も丹念に色を置いており，それが空間をつくっている。

優　秀　賞

篝火花　　F 15　油彩

平野　良光（霧島市）

小作品ながら，画面にスケール感を感じさせる。葉のギラギラした白が画面のリズムを作り，それが背景の宇宙的な不思議な空間とうまくかみ合って世界観を活かしている。対比させた花の赤い色調が面白い。

優　秀　賞

時感 AMAMI（2022）　　F 15　油彩

餅原　宣久（鹿児島市）

硬質で発色のよい画面に仕上がっている。普段の何気ない生活の中で感じられた自然を，強い日差しを感じる色と影で上手に表現し，風が一瞬止まったような深い青空に浮かぶ紙飛行機には作者のメッセージが込められている。

優　秀　賞

自然の声　　F 15　油彩

田中　孝林（福岡県）

奄美に対する独特の世界観があり魅力がある。周りの木々や緑が丹念に描き込まれていて，画面を面白くしている一つの要素となっており，木々の間を抜けて落ちてくる強くやわらかい光が奄美の空気を感じさせる。

優　秀　賞

白波寄せて　　F 15　油彩

上田　泰徳（東京都）

S字型の構図で画面の動きをつくり，様々なブルー色の段階が，主体である波の泡の感じや面白さを際立たせている。じわじわと作品の魅力が伝わってきて，カメが現れてきそうな雰囲気を醸し出し，素直に表現されている。

優　秀　賞

この地に生きる－ symbiosis　　F 15　油彩

KUMA － YOSHI（神奈川県）

淡い色調の背景がとても魅力的な作品。モチーフであるヤドカリの殻が人工物であることで，切ない雰囲気を出しているとともに，現代社会に対する強いメッセージを発信している。

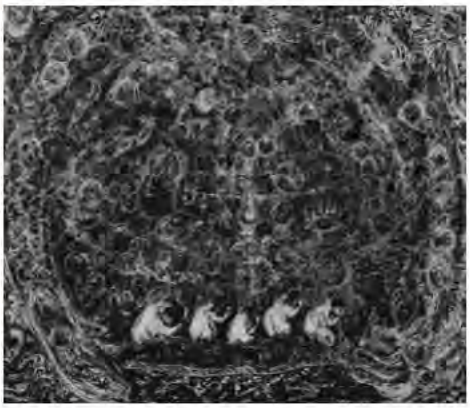
佳作・奄美の海賞

夜を迎えるまで　　F 15　油彩

村田　優佳（鹿児島市）

刻々と変化する爆発的な雲の動きが，若い作者のエネルギーを感じさせる。様々な夕日の光の色と反射をしっかりと観察して表現し，手前の砂浜とうまく呼応させている。作者のさらなる成長に期待したい。

佳作・奄美の空賞



ワキャ ウガムンドー

～平瀬マンカイ祈り～　F 15　油彩

植村　恭子（鹿児島市）

火山灰という素材の持つ魅力を十分に生かして，モノトーンの美しい画面を作っている。印象的に描かれた人物が超自然的なものとの対話というテーマを感じさせ，画面の丸い形の存在がリズムを作っている。

佳作・奄美の社賞

もつれた上弦に繋がるもの

M 15（アクリル）

Tako ★ MASARU（神奈川県）

サインや額も含めて作品の一部として表現されており，作者のこだわりを感じる。額の形からできる影の効果もねらったのだろうか。月に向かって伸びるガジュマルの木の形の面白さや背景，月の色調などにも魅力を感じる。

コンロン力賞

海の輝き　　F 15　油彩

盛　こころ（奄美市）

明るい部分の色彩と周りの鈍い部分の色彩とを画面の中でうまく対比させ，貝が輝いて見える印象的な作品に仕上げている。手の表情もよく，優しく持ち上げている感じが伝わる。

ソテツ賞

（回想）江仁屋離島と貝採り　F 15　油彩

新島　修二（埼玉県）

のどかでユーモラスな印象を受ける。雲の形や影，サンゴ礁の緑などがいい表情をしている。画面全体の柔らかな感じの中にある無人島のシャープな線が対比的で，新鮮な感覚を感じられる。

【審査総評】

奄美を描く美術展には，奄美在住の方が日常の中で感じたことを描いた作品から，島外の方が南国のイメージを深めながら描いた作品など，様々な視点や異なる切り口から描かれた素晴らしい作品がたくさん集まっており，どの作品にもそれぞれの良さがありました。田中一村も独自の視点で奄美を表現することに成功した一人だと思います。

また，様々な素材を活かして，奄美を表現するという行為は，奄美の魅力を触覚的に再発見することに繋がります。奄美を描く美術展が奄美の魅力をより引き立てるものとして，これからも発展していくことを期待します。

審査員長　安達　博文（富山大学名誉教授）

7　龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展

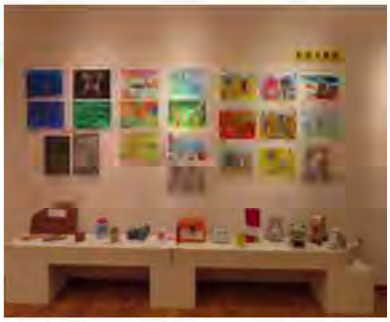
ア　開催期間　令和４年 12 月 24 日（土）～令和５年１月９日（月・祝）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　入館者数　1,417 人

エ　内　　容

児童・生徒の創作活動への興味・感心・意欲を高め，美術館を身近に感じてもらうとともに，保護者や地域住民に学校の学習内容や児童・生徒の様子を理解していただき，また，小・中学校の教員にも指導内容等についての情報交換の場となることを目的に，龍郷町立の小学校７校と中学校３校の児童・生徒が，授業で制作した立体作品 155 点，平面作品 464 点，計 619 点を展示した。開催期間が冬休みということもあり，家族連れや孫の作品を見に来た地元の方や，観光等で偶然立ち寄った来館者など多くの方が来場し，色彩豊かな作品をじっくり観察する姿があった。来館者からは，「表現するということは，簡単なようでとても難しいことだと思っています。児童・生徒さん達の素直な作品に感激しました。自分は養護学校の教員をしており，美術を担当しています。この展示を拝見して作品づくりのヒントをもらいました。」「田中一村氏の作品も良かったですが，小中学生の自由奔放な作品を見ていると心が若返えるような元気をもらいました。これからも奄美の自然や文化を，美術を通じて学んでほしいです。」「美術館のおかげで子どもたちが芸術に触れる機会が増えたように思います。これからも素敵な作品を楽しみにしています。」と感想をいただいた。



8　創作体験教室

(1)　写真講座

ア　開催日時　令和４年５月１日（日）　10：00 ～ 15：00

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　レクチャールーム

ウ　参加者数　８人

エ　内　　容

初開催となった小・中学生向けの創作体験教室「写真講座」は，小学生７人，中学生１人の計８人に参加していただき，講師に芸術写真家の武部守俊氏を迎えて開催をした。

始めに武部氏より，撮影モードや明るさの補正，撮影時の構え方など，デジタルカメラの基本操作について説明していただき，子どもたちは，一人一台支給されたデジタルカメラを熱心に操作しながら学んでいた。

説明後は，実践に移り，奄美パークの広場や展望台，一村の杜など様々な場所で撮影を行なった。子どもたちは，植物や虫，展望台からの風景などを様々なアングルで撮影し，途中講師からピントの合わせ方や構図の取り方などを教えてもらうと，すぐにその知識を活かして撮影に取り組む姿が見られた。

子どもたちは，昼食休憩も含め約２時間の実践時間で 200 枚近くの写真を撮影し，レクチャールームでは，撮影した写真をスクリーンに映しながら武部氏から講評をいただいた。講師からは，「子どもたちの撮り方や純粋に撮影を楽しんでいる姿を見ることができ，講師として参加できて良かった」とお言葉をいただいた。

参加者からは，「自分がこんなにきれいな写真を撮れるなんて思っていなかったので，びっくりした。水の中で写真を撮るのも初めてだったので，楽しかった。」「今まで不思議に思っていた花の中の撮影の仕方などを学ぶことができ，素敵な写真がたくさん撮れてとても嬉しかった。」と感想をいただいた。

(2)　日本画講座

ア　開催日時　令和４年５月８日（日）　10：00 ～ 15：00

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　レクチャールーム

ウ　参加者数　13 人

エ　内　　容

初代学芸専門員の西村康博氏を講師に招き，日本画の創作体験教室を開催した。

今年度は，チューブ絵具ではなく，水干絵具を使って日本画の制作を行った。参加者は，水干絵具と膠（にかわ）液を指で少しずつ混ぜながら，持参したモチーフの植物や貝殻などの色を作った。次に木炭でアタリ（線を描き，大まかな位置決めをする下描き作業）を取り，水干絵具を使って描き作品を作成した。参加者は，モチーフをよく観察しながら下描きし，途中で講師から助言をもらいながら作品を仕上げた。

講評では，「初めての水干絵具での講座であったが，水干と膠を混ぜる過程もとても大事な作業であり，参加者全員が丁寧に色を作り，作品を完成させていて良かった。作品もモチーフをよく観察し，上手に描けている。今後も，日常的に絵を描いてレベルを上げてほしい」と助言をいただいた。

参加者からは，「膠を使って指で色を作るのは初めてで，とても楽しかった。彩色の時間は，理想の色を表現するのは難しく苦戦したが，先生に指導をいただき，最後仕上がった作品を見て達成感を味わうことができた。」と感想をいただいた。

(3)　人物画講座

ア　開催日時　令和５年２月 25 日（土）～ 26 日（日）　10：00 ～ 15：00

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　参加者数　１日目　23 人　/　２日目　24 人

エ　内　　容

公益社団法人二科会常務理事の西健吉氏を講師に招き，創作体験教室「人物画講座」を開催した。モデルは，2013 年紬美人に選ばれた福澤文香氏に２日間依頼した。今回は，県立奄美高等学校と県立大島高等学校の生徒，大和村立大棚中学校の生徒も参加し，活気あふれる人物画講座となった。

１日目は，モデルに「立ち」，「座り」，「寝そべる」などのポーズをとってもらい，５分間のクロッキーを３セット行った。その後，固定ポーズで 15 分間描く工程を３回行った。途中，講師が受講者の作品を見て回り，構図の取り方や明暗の付け方について助言し，受講者は講師の助言を参考に制作に励んだ。

２日目は前日同様，５分間のクロッキーを２セットと，固定ポーズで 15 分間描く工程を４回行った。

受講者は，モデルの特徴を捉え，鉛筆や木炭，水彩等で前日の助言を生かしながら人物画の制作に取り組んだ。特に２日目は，積極的に講師から絵に対する助言を受け，それぞれに個性あふれる作品を制作する様子が見られた。

両日とも最後に，制作した作品一点一点について講師が講評を行った。最終日の講評では，「建築物と人物の描き方は同じ。人物に限らず画の構築は同じというように考える。土台，基礎工事が大事であり，時には描いている作品を遠くから確認し，バランスを見ながら描くこと。絵画空間は，写真などの２次元ではなく３次元である。作品を観る方に感動を与えられるような作品をどんどん描いてほしい。今回は，中学生や高校生が参加し，とてもパワフルな作品が多く良かった。今回の経験を活かして今後の制作活動を頑張ってほしい。」と呼びかけ，受講者は熱心に耳を傾け，時には質問をしながら互いの作品を鑑賞した。

受講者からは，「西先生の講座を毎年楽しみにしている。年に一回ではなく，もう少し講座の回数を増やしてほしい。」「初めての参加だったが，先生に助言をいただけて，めったにない貴重な時間を楽しめました。」「奄美では，モデルを呼んで人物を描ける機会が少ないので良い経験になった。」などの感想をいただいた。

9　夏休みワークショップ

(1)　夏休み子どもワークショップ「風鈴をつくろう」

ア　開催日時　令和４年７月 17 日（日）　10：00 ～ 12：00

イ　場　　所　奄美パーク　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　参加者数　15 組 20 人

エ　内　　容

夏休み子どもワークショップは，夏を感じることができ，小・中学生の幅広い年代で制作ができる「風鈴づくり」を初めて開催し，小学１年生から中学３年生までの 20 人とその保護者が参加した。

まず初めに，学芸専門員より制作時は，風鈴はガラスで落とすと割れ予備がないこと，ハサミを扱うので保護者の方と一緒に使うことを子どもたちに説明した。

子どもたちは，このイベントのためにパークアテンダントの前田鈴夏氏に描いてもらったイラストから風鈴に描く絵を選び，それぞれハサミで切り抜いて，風鈴の内側に貼り付け，グラスデコという特殊な絵具を使って彩色をした。ペンの扱いが難しく，力が入りすぎると乾きにくくなったりしてしまうので，細かい部分は，保護者と一緒に彩色している姿が見られた。

世界に一つだけの夏らしい素敵な風鈴が出来上がり，参加者からは，「風鈴に絵を描くのが難しかったが，初めて風鈴を作る事が出来，楽しかったし良い作品が出来上がって嬉しかった。」「ガラスに描ける特殊な絵具を使うのは初めてで面白く，出来上がった風鈴は，音色がきれいで，家に飾って家族で暑い夏を音色を聴いて少しでも涼しくなるようになると良い。」また，保護者からは，「子どもがここまで集中して活動している姿を初めて見た。個人で購入して家でもやってみる。」と感想をいただいた。

また，絵具を乾燥させている時間を活用して，美術館にて学芸専門員による田中一村の作品鑑賞を行った。子どもたちは，30 分程度の短い時間ではあったが，自分と同じ位の年齢で作品を描いていたこと，出身が奄美大島ではなく栃木県だということなど学芸専門員の話に耳を傾け，「またゆっくり観に来たい。」と感想をいただいた。

(2)　夏休み親子草木染め体験

ア　開催日時　令和４年８月21日（日）　10：00 ～ 15：00

イ　場　　所　奄美パーク　屋外管理棟

ウ　参加者数　８組24人

エ　内　　容

奄美市笠利町で「工房しまむたび」を経営する植田正輝氏を講師に招き，夏休み親子「草木染め体験」を開催した。

参加者は，まず初めに自然の素材を生かした染色技法を学び，パーク内に植えられている福木（フクギ）を親子で採取し，煮出している間に持参したＴシャツやタオル，エコバッグに模様をつけるために輪ゴムやスズランテープで縛る作業を行った。また，パーク内に生えている植物を採り，染料を使ってバッグに模様をつけたりした。

福木の黄色と講師が用意した染料の藍色の２色を使って，親子でどのような模様ができるか考えながら染料に漬け，繊維に色が定着するよう絞っては漬ける作業を繰り返し行い，定着させるために媒染（ミョウバンで発色・定着させる作業）を行ったあと一度乾燥させた。午後からは，仕上げの海水（塩水）に漬けて色を固定させ，水洗いをして世界にひとつだけの作品が出来上がった。

参加者からは，「福木は，自分で最初に採った際は緑色だったのに煮出すことで黄色になったところがすごいと思った。世界にひとつだけのＴシャツを着て美術館に遊びに来たい。」「子どもと一緒に共同作業をすることは久し振りで楽しかった。夏の思い出ができて良かった。」と感想をいただいた。

10　田中一村鑑賞会

ア　開催日時　令和４年11月６日（日）　10：30～11：45

イ　場　　所　田中一村記念美術館

ウ　参加者数　23人

エ　内　　容

美術館で展示している田中一村の生き方や作品の基礎知識（題材や構図，技法などの特徴等）について理解を深めていただくため，学芸専門員を講師に田中一村鑑賞会を開催した。

鑑賞会は，第１展示室から始め，一村の生い立ち，幼少期から青年期での出来事や苦悩を作品と併せて説明し，第２・第３展示室では，50歳で奄美に渡るきっかけとなった九州・四国・紀州の旅や奄美に渡ってからの一村作品の説明を行った。特別展示室では，新たに大島寺で発見された９点の作品解説を行いながら，「高倉遠望」について，色紙「湾とパパイヤ」の対岸から描かれたのではないかという新しい仮説を披露した。参加者は，鑑賞会の中で学芸専門員から直接一村について学び，メモを取りながら熱心に耳を傾ける姿が見られた。

参加者からは，「田中一村の人生背景に触れた解説で，非常に分かりやすく印象に残りました。また色々と一村について調べてみたくなりました。」「大島寺でみつかった９枚の絵を見たかったのですが，ちょうど鑑賞会もあると新聞で知りタイミングが良かったです。一人で見ても分からないことを学芸専門員の言葉で一村のエピソードも含め，楽しく説明してくれたので良かった。」と感想をいただいた。

11　その他企画事業

(1)　学芸専門員派遣授業事業

ア　目的

奄美の自然を描き，日本画の新境地を切り開いた田中一村の生涯や作品のよさ・美しさへの理解を深める鑑賞教育の一環として，学芸専門員を奄美大島本島内の公立学校へ講師として派遣する。

イ　派遣授業の概要

(ｱ)　図画工作・美術の鑑賞授業の中で，田中一村の作品（複製画）を鑑賞しながらお互いに意見を述べあい，表現方法のよさや美しさに対する見方や感じ方を学ぶ。

(ｲ)　学芸専門員から田中一村の生涯や田中一村記念美術館について学ぶ。

(ｳ)　田中一村の作品を通して感じたことをそのままに表現する。

ウ　活動実績

(ｱ)	龍郷町立龍瀬小学校	令和４年５月 14 日（土）	81 人
(ｲ)	大和村立大棚小学校	令和４年６月９日（木）	４人
(ｳ)	宇検村立名柄中学校	令和４年６月 16 日（木）	４人
(ｴ)	宇検村立阿室小学校	令和４年７月 13 日（水）	12 人
	宇検村立阿室中学校	令和４年７月 13 日（水）	３人
(ｵ)	奄美市立朝日中学校	令和４年７月 19 日（火）	89 人
(ｶ)	奄美市立芦花部中学校	令和５年２月 10 日（金）	22 人
(ｷ)	奄美市立赤木名小学校	令和５年３月２日（木）	19 人

(2)　田中一村記念美術館「リモート鑑賞授業」

ア　開催日時　令和４年９月13日（火）　13：55～14：55

イ　場　　所　鹿児島大学教育学部附属中学校

ウ　参加者数　生徒35人・教諭１人・教育実習生３人　計41人（オンライン）

エ　内　　容

地理的環境により日常的に奄美を訪れることができない鹿児島大学教育学部附属中学校２年生35人の生徒とオンライン授業を50分間行った。

初めに美術館と学芸専門員の紹介で授業をスタートし，授業では，主題と表現方法のつながりに着目して，田中一村の作品の良さや美しさを感じ取ることを学習目標とし，まずは，生徒がそれぞれで感じたことをまとめ，その後，グループで意見を出し合った。

最後に，学芸専門員から「不喰芋と蘇鉄」の作品に描かれているものや一村の生涯，奄美での生活の様子について説明を行い，生徒たちは，自分なりの見方や感じ方を深めて鑑賞の記録をまとめた。

生徒からは，「今まで習ってきた色の感情や構図のこと，色についてなどの知識をうまく生かして，自分なりに田中一村さんの絵を鑑賞することができた。また，自分が気づいていないところに友達が気づいていて，納得した瞬間がとても面白かった。」「自分たちの考えでは及ばなかった部分も，学芸員さんが丁寧に説明してくださり，新たな視点をもって考えを深めることができました。絵は多面的に見ることが大切だと改めて知ることができたような気がします。」「田中一村の作品を細かく鑑賞し，田中一村さんの表したいことを考えたことで，『田中一村』という人物への理解が深まり，描いた作品や，彼の人生への関心が深まった。だから，いつか機会があったら彼のことを深く調べてみたいと思った。」などの感想をいただいた。

(3)　一村キッズクラブ

①　スケッチ活動

ア　開催日時　令和４年４月17日（日）　８：30～10：00

イ　場　　所　田中一村終焉の家

ウ　参加者数　園児１人・小学生６人・大人３人　計10人

エ　内　　容

初回の活動は，笠利町と奄美市の児童６人が参加し，田中一村終焉の家を清掃後，絵画活動を行った。

初回は「一村作品の模写」をテーマとして，一村が幼少期に描いた「紫陽花」や「白梅図」などの数点から児童が選び，始めに薄墨で花の輪郭や全体図を描き，その後水彩絵の具で彩色を行った。子どもたちは，学芸専門員から彩色での色の混ぜ方のコツを教わり，一生懸命色を混ぜて一村作品に近い色合いを作り作品を完成させた。

参加者からは，「自分と同じ年に沢山の絵を描いていてすごいと思った。色を塗る作業は一村さんと同じ色にしていくのが難しかったが，仕上げていくのはとても楽しかった。」「時間内に色を塗る作業まで行けなかったが，一村さんがどんな気持ちで描いたか考えながら作品を模写するのが楽しかった。家で色を塗って完成させたい」と感想をいただいた。

②　スケッチ活動

ア　開催日時　令和４年５月15日（日）　８：30～10：00

イ　場　　所　田中一村終焉の家

ウ　参加者数　小学生７人・中学生１人・大人５人　計13人

エ　内　　容

２回目の活動は，児童７人，生徒１人が参加し，「一村橋･一村公園まで歩こう会」という内容で，田中一村終焉の家を清掃後，一村ゆかりの地である一村橋を通り，一村公園までの約1.1キロの距離を散策しながら歩いた。

公園では咲いている植物のスケッチを行い，40分程度の短い時間であったが，植物の葉脈や花の色などをよく観察し作品を仕上げた。

参加者からは，「一村さんが住んでいた家が今あるところではない事を初めて知った。家から近いのでまた来て絵を描いたりしたい。」「時間内に色を塗る作業まで行けなかったが，いつもの終焉の家ではなく，違う場所で絵を描くのは気分が変わって楽しかった。」と感想をいただいた。

③　スケッチ活動

ア　開催日時　令和４年６月19日（日）　８：30～10：00

イ　場　　所　田中一村終焉の家

ウ　参加者数　小学生３人・大人２人　計５人

エ　内　　容

３回目の活動は，児童３人が参加し，田中一村終焉の家の周りの草むしりと室内清掃を行った後，「一村さんのように植物を描こう」と題して，周辺に生えている植物のスケッチを行った。

冒頭，スケッチを行うにあたり，学芸専門員より一村作品の説明を行った。一村は描く物を観察し，時間をかけて作品を完成させていたことを伝え，葉の葉脈や形など細かい部分をよく見て描いていくことを指導した。子どもたちは，柿やハイビスカスなどのスケッチを行い，色付けの時間になると，植物の色の違うところを発見しながら色を組み合わせ，作品を完成させた。

参加者からは，「学校で行ったスケッチは，タブレットで検索して描いたので実物を描くことは，色々な角度から観察でき，色も少しずつ違うので楽しく描くことができた。」「一村さんはよく観察して描いていたと教えてもらい，長時間観察したから本物の様な作品ができたのだと思った。自分もしっかり観察し，葉のギザギザの部分やハイビスカスの色をグラデーションにして上手に描けた。」と感想をいただいた。

④　スケッチ活動

ア　開催日時　令和４年８月28日（日）　８：30～10：00

イ　場　　所　田中一村終焉の家

ウ　参加者数　小学生４人・大人２人　計６人

エ　内　　容

４回目の活動は，児童４人が参加し，田中一村終焉の家の周りの草むしりと室内清掃を行った後，「一村（仿米海嶽）の描き方と練習」と題して，一村作品のスケッチを行った。

冒頭，スケッチを行うにあたり，学芸専門員より南画作品の説明を行った。今回は下描きをせず，初めから水彩絵具を使い，筆を寝かせた状態で点をつなぎ合わせて描く技法で，色が濃い部分と薄い部分をよく観察しながら描く事を指導した。子どもたちは，初めて体験した描き方に楽しそうに取り組む姿が見られた。

参加者からは，「点をつなげて描く描き方が面白かった。山のグラデーションがきれいに描けて良かった。」「空の色の付け方のコツを学芸専門員に教えてもらったので，これからは，その描き方で色々な作品を描いていきたい。」と感想をいただいた。

⑤　手紙スケッチ活動

ア　開催日時　令和４年９月11日（日）　８：30～10：30

イ　場　　所　田中一村終焉の家

ウ　参加者数　小学生２人・大人１人　計３人

エ　内　　容

５回目の活動は，児童２人が参加し，田中一村終焉の家の周りの草むしりと室内清掃を行った後，中学校２年道徳教科書「輝け未来」（学校図書出版）の一村のページを音読し，そこから感じ，読み取ったことを一村さんに宛てた手紙にして一村忌のお供えとする活動を行った。

手紙を書いた後は，一村さんに向けて絵も描きたいとの思いから，水彩絵具で前回の活動「仿米海獄」の山の絵を手本を見ずに描き，数カ月間のキッズクラブで学んだ絵の技法を一村へ伝えるよう想いを込めながら描く子どもたちの姿が見られ，成長を感じることができた。

キッズクラブ終了後は，一村会の主催で「一村忌」が執り行なわれ，子どもたちにも一緒に参列してもらった。一村会会長の美佐氏と宮崎館長の挨拶後，名瀬美術協会の久保井先生による献杯を行い，キッズクラブの子どもたちには一村さんへの手紙を朗読してもらった。その後，参加者は，一村の写真を飾った祭壇に一人ずつソテツの葉を供え，手を合わせて一村忌は終了した。

参加者からは，「今までの活動を思い出し，一村さんの事を想いながら手紙を書いた。一村さんのように絵が上手に描けるよう，これからもキッズクラブで絵を沢山描いていきたい。」「一村忌にも参加することができて良かった。天国にいる一村さんに手紙や絵が届くと嬉しいなと思った。」と感想をいただいた。

⑥　スケッチ活動

ア　開催日時　令和４年11月20日（日）　８：30～10：00

イ　場　　所　田中一村終焉の家

ウ　参加者数　小学生３人・大人２人　計５人

エ　内　　容

６回目の活動は，児童３人が参加し，田中一村終焉の家の室内清掃を行った後，スケッチ活動を行った。

今回は，「貝殻と植物」をテーマとし，美術館から持参した６種類の貝殻から好きな貝殻を選び，スケッチを行った。学芸専門員より，貝殻を描くことは，美術大学等で試験に出る程難しい題材であり，まず貝の輪郭を描き，そこから先端部分や大きく渦を巻いているところを描いていくよう指導した。色付けの際は，貝の特徴や立体感が出るよう，よく観察し，一色ではなく様々な色を重ねて作品を完成させた。

参加者からは，「初めて貝殻を描いたが，貝殻の立体感や大きさを表現するのは難しく，10歳で貝（蛤図）の絵を描けていた一村さんは改めてすごいと思った。色を塗るところは，学芸専門員にいつも指導してもらうように様々な色を重ね，貝の特徴を捉えて色を塗ることができた。」と感想をいただいた。

⑦　年賀状づくり

ア　開催日時　令和４年 12 月 18 日（日）　８：30 ～ 10：00

イ　場　　所　田中一村終焉の家

ウ　参加者数　小学生６人・大人３人　計９人

エ　内　　容

７回目の活動は，児童６人が参加し，田中一村終焉の家の室内清掃を行った後，年賀状づくり活動を行った。

まず初めに，学芸専門員が来年の干支「うさぎ」の描き方について，持参した黒うさぎの写真を見せながら，輪郭や表情などの描き方を指導し，参加者は特徴を捉え，表情豊かなうさぎの絵を描いて仕上げた。

参加者からは，「好きな動物だったので，うさぎの表情や形を描くのは楽しかった。口元が“Y”であることを学芸専門員に指導してもらったので，今度うさぎの絵を描く時は友だちにも教えたい。」「昨年作成した年賀状は，お婆ちゃんにとても喜んでもらえた。嬉しかったので今年も年賀状を作った。喜んでくれると思う。」と感想をいただいた。

⑧　書き初め活動

ア　開催日時　令和５年１月 22 日（日）　８：30 ～ 10：00

イ　場　　所　田中一村終焉の家

ウ　参加者数　小学生７人・大人３人　計 10 人

エ　内　　容

８回目の活動は，児童７名が参加し，田中一村終焉の家の室内清掃を行った後，書き初め活動を行った。

初めに，例題として「正月」を連想できるような３文字の言葉を例題としていくつか用意し，その中から選択したものを書き初め用の半紙に毛筆で書いてもらった。子どもたちは，学校の授業で習っていることもあり，慣れた様子で半紙に文字を書く姿が見られた。

続いて，空いているスペースに書いた文字からイメージした絵を墨で描く作業では，学芸専門員が，「薄墨」，「濃墨」，「にじみ」，「かすれ」など，色々な技法で描くことができる方法を実践して見せ，

段階的に明るさを変えることでグラデーションができること，水と墨のバランスに気をつけながら描いていくことを指導した。子どもの一人は，「富士山」の文字に「初日の出」の絵をグラデーションの技法を使って描き，今年の干支「うさぎ」を書いた子どもは，黒うさぎの絵を薄墨・にじみの技法を活用して作品を完成させた。

参加者からは，「学校の授業では，文字を書くことしかなかったので，初めて半紙に絵を描き，優しく描かないと破れてしまうので難しかったが，とても面白かった。」「一村さんのような水墨画の描き方を学べて良かった。」と感想をいただいた。

⑨　本茶峠入口まで歩こう

ア　開催日時　令和５年３月５日（日）　８：30 ～ 10：00

イ　場　　所　田中一村終焉の家，朝日小学校

ウ　参加者数　小学生１人・中学生１人　計２人

エ　内　　容

最後の活動は，「本茶峠入口まで歩こう」という内容で児童・生徒２人が参加し，田中一村終焉の家の清掃を行った後，一村がよく歩行訓練のため行っていた本茶峠入口まで散策しながら歩いた。参加者は，道中，一村が終焉の家へ移る前の約 16 年間住んだ跡地を見たり，学芸専門員による田中一村ゆかりの地としての解説を聞きながら，一村がこの道を歩いていたことを想像して，本茶峠入口まで散策し，一村について理解を深めた。その後，朝日小学校前に移動してスケッチ活動を行い，１年間学んだ成果を絵で表現している姿が見られた。

参加者からは，「あっという間の一村キッズクラブ活動であったが，一村の家で一村について学んだこと，絵画活動で学芸専門員に教えてもらったことを新しい地で活かしていきたい。」と感想をいただいた。

奄美市に木の剪定やトイレ前の舗装などをしていただいたおかげで，更に明るい一村終焉の家となった。４月からも一村キッズクラブ会員を募集し，一村の家とキッズクラブの活動を大切にしていきたい。

(4)　田中一村記念美術館４コマ劇場

ア　目的

田中一村の作品や人生について，広く興味や関心をもってもらうため，田中一村を知らない児童・生徒を対象に，４コマ漫画をSNS等で配信し，田中一村の新たなファンの獲得や田中一村記念美術館への誘客促進を図ることを目的として，月１回のペースでオリジナルの４コマ漫画を作成し，掲載・配信する。

イ　開始日・掲載回数

令和２年８月８日（土）～

美術館HP・しーまブログ・Facebook・Instagram・Twitterにて公開

※令和４年度は，第38話から第40話まで配信（全40話で終了）

ウ　内容

物知りで絵も上手な少年「奄村　描」と奄美大島きょらむん代表「奄 美郷」の二人が，田中一村の生い立ちや作品，美術館の行事などを紹介する。

※一村さんが描いたとてもきれいなルリカケス、実はカラスと同じ仲間なんだ。ビックリだね。

※生息地…住んでいる場所

※田中一村記念美術館で、一村さんの描いた牛の絵を鑑賞しよう！

※時期によっては、展示していないこともあります。

※田中一村記念美術館に、一村さんの描いたパパイヤの絵が何枚あるか数えてみよう！

※ちなみに、奄美や沖縄では、野菜炒めなどにパパイヤを入れることもあるよ！

第５　奄美パーク応援隊

１　結成目的

奄美パークの活動を支援し，魅力ある施設実現の一助とし，ひいては奄美群島の観光振興に寄与することを目的として，ボランティア活動を行う。

２　隊員数　51 人（令和５年３月 31 日現在）

３　年間活動回数　32 回（六調三線 23 回・園芸作業 9 回）

４　活動内容

奄美パーク応援隊は，施設内のガイドを目的に平成 15 年度に発足した。

平成 18 年度には，展示案内ガイド・手熟ガイド・園芸サポーター・一村サポーターと，４つの分科会を設けたが，それぞれの活動頻度が異なり分科会によっては，活動実績がない状況にあったため，再度，活動のあり方を見直した結果，平成 26 年度より分科会を廃止し，展示案内･手熟（三味線や島唄等）の披露･園芸活動・美術館活動・その他活動（奄美パークが企画したイベント，業務等への参加，園内の清掃）と，５つの活動内容で構成し，隊員はそれぞれ得意な分野や興味のある分野を中心に参加することとなった。

隊員には登録証を発行し，ボランティア活動保険への加入と，原則，年に２回以上の活動を義務付けている。登録証は，応援隊の活動時以外でも提示することで，奄美パークの有料ゾーンに入ることのできるフリーパスにもなっている。なお，事務局は月に一度，応援隊活動の予定や奄美パークの行事予定，活動報告などを掲載した「応援隊通信」を発行し，すべての隊員へ配付している。

５　活動実績

今年度は，新規隊員が 13 人，昨年度から引き続き更新のあった隊員が 38 人，計 51 人の加入申し込みがあった。

月２回の六調三線の練習は，固定メンバーを中心に，初参加の方なども暖かく迎え入れ楽しい雰囲気で行われていた。団体バスの出発に合わせて行う「六調」でのお見送りも非常に好評で，一緒に踊る観光客も多かった。また，興味を持って見学している個人客には，コロナ感染予防対策を講じつつ，三線や太鼓に触れてもらったりしてより深い交流が出来た。

園芸作業は，２階テラスの花壇の手入れを中心に行った。会員から花苗や肥料の提供もいただき，年間を通して花を楽しめる場となった。また，夏場には一村の杜の清掃作業を行い，来園客との挨拶や，展望台の案内など，会話や交流も生まれていた。

令和３年度より，県立大島北高等学校の生徒たちにイベントサポーターとしての活動を呼び掛けており，今年度は２名の生徒が，５月の「奄美パークわくわく遊び広場」にて，ゲームに参加する子どもたちの案内を担い，明るい雰囲気でイベントを盛り上げてくれた。

コロナが落ち着いてくる中，来園客とのふれあいも増え，隊員の皆さんの意欲と活動後の満足度は高いと感じている。今後も，奄美パークを盛り上げていただくため，より充実した活動が出来るように，お力をお借りしたい。

第６　その他　関連イベント

○まるごと奄美 in 東京

１　開催日時　令和４年６月３日（金），４日（土），５日（日）
　　午前の部　11：30 ～ 14：30，午後の部　16：30 ～ 20：30

２　入場者数　370 人

３　内　　容

新型コロナウイルス感染症の拡大により移動制限が続き，なかなか観光客が奄美を訪れることができない中，こちらから奄美の食や文化を東京に持っていき，都会で奄美を感じてもらうことで，奄美群島全体への誘客につなげるため，若手経営者が中心となって実行委員会を組織し，東京都心の「渋谷エクセルホテル東急」を会場に３日間に亘り昼夜２回のイベントを行った。

イベントは，入場者数限定のチケット制で行い，大人 10,000 円，子ども 5,000 円（小学生まで）で 60 名×６回の全体 360 名で応募を募ったところ，チケットは完売し，会場は満席でのイベントとなった。

イベントは，安田壮平奄美市長の挨拶（動画）で開演し，まるごと奄美実行委員会宮崎緑会長の挨拶，奥圭太委員長（㈱ばしゃ山村）の乾杯でスタートした。

冒頭のパフォーマンスは，メイン会場において，唄者が島唄を披露し，続けて大島紬，黒糖焼酎の魅力を映像にして会場内で上映した。その後は，鶏飯をはじめとする奄美大島の伝統料理や旬を迎えたスモモを使ったスイーツなどを提供。黒糖焼酎は，イベントのメインドリンクとして提供し，16 社 31 銘柄が振る舞われ，会期中を通して常時ブースが来場者でにぎわい，ホテルからもお客様の満足度が高かったとの評価をいただいた。

メイン会場以外では，大島紬の着付け体験や機織体験，小物ワークショップ，ソテツの葉を使った創作体験，指笛教室など，催しは見るだけでなく参加型で行ったこともあり，運営サイドとお客様の距離が近く，一体感が生まれていた。

毎回のイベント後半には，ステージにて大島紬のファッションショーが行われ，着付け体験のお客様もプロのモデルからウォーキングのレクチャーを受けてステージ上で披露し，会場は大きな盛り上がりであった。

最後に踊り手のあらしゃげ会とまるごと奄美実行委員会で会場全体に丸い輪を作り，お客様を含めて，参加者全員が蘇鉄の葉で作った帽子を被り，八月踊りで盛り上がった。お客様からは，「島に行くより，島に触れることができた」「次は必ず島に行く」「また次回もやってほしい」という高評価の声を多くいただき，イベント全体が大盛況のうちに終了した。

鹿児島県奄美パーク 令和４年度事業報告書
2022 LEAF 第21号
［発行日］2023年12月発行
［編集・発行］奄美群島広域事務組合
鹿児島県奄美市笠利町節田1834
電話 0997-55-2333 FAX 0997-55-2612
公式サイト http://amamipark.com/
公式ブログ https://ap930.amamin.jp/